

# SOAI familiar

相愛ファミリア  
 相愛大学 www.soai.ac.jp  
 〒559-0033 大阪市住之江区南港中4丁目4-1 TEL.06-6612-5900  
 相愛高等学校・相愛中学校 www.soai.ed.jp  
 〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-23 TEL.06-6262-0621

SOAI familiar 2011 No. 20 相愛ファミリア 第20号・2011平成23年12月15日発行 ●発行元：学校法人相愛学園 学園広報誌編集委員会 ●http://www.soai.jp



## インタビュー 歌い継がれて いく曲を作りたい

作曲家、編曲家  
相愛大学音楽学部卒業生  
**井手上 慶さん**

- 3 相愛チャリティーイベント・レポート
- 14 金児曉副学長らに大阪市市民表彰
- 18 テニスで高畑さん、学生音コンで西川さん快挙

### ◆相愛学園イベントガイド (2012年1月～2012年3月)

- 成人の集い  
1月7日(土)  
本学南港ホール  
本学在学生対象
- 親鸞聖人御正忌法要/  
学園関係者物故者追悼法要  
1月16日(月)  
本学本町学舎講堂  
本学関係者対象
- 古楽器・アンサンブル演奏会  
1月24日(火)  
本学南港ホール
- 北御堂相愛コンサート  
1月26日(木)12:25～12:45  
本願寺津村別院(北御堂)本堂  
入場無料
- 市民仏教講座  
1月28日(土)13:30～15:00  
本学学生厚生館S307  
講師：福本康之氏(本学非常勤講師)  
講題：「一緒にうたおう仏様の歌を」  
受講無料
- 人間発達学部公開講座  
(メタボダイエット教室)  
1月28日(土)14:00～16:30  
本学南港学舎  
申込終了  
問い合わせ: 教学課
- 相愛高等学校乙女コンサート  
高校1年生の部  
2月4日(土)13:30～  
本学本町学舎講堂  
入場無料  
出演：本校高校音楽科1年生
- 相愛大学音楽専攻科修了演奏会  
2月12日(日)  
ザ・フェニックスホール  
入場無料  
出演：本学音楽専攻科修了生
- 市民仏教講座  
2月18日(土)13:30～15:00  
本学学生厚生館S307  
講師：寺澤真琴氏(近畿大学講師)  
講題：「わかり合うということについて」  
受講無料
- 相愛高等学校卒業奉告本山参拝  
2月20日(月)  
浄土真宗本願寺派本願寺(西本願寺)
- 帰敬式  
2月20日(月)  
浄土真宗本願寺派本願寺(西本願寺)
- 北御堂相愛コンサート  
2月23日(木)12:25～12:45  
本願寺津村別院(北御堂)本堂  
入場無料
- 相愛高等学校卒業式  
2月23日(木)  
本学本町学舎講堂
- 相愛音楽教室スプリングコンサート  
2月26日(日)  
本学本町学舎講堂  
入場無料  
出演：音楽教室生
- オペラ試演会～フィガロの結婚～  
2月28日(火)16:00開演  
本学南港ホール  
入場無料
- 第57回相愛オーケストラ定期演奏会  
～オペラ公演～  
3月4日(日)  
大阪国際交流センター大ホール  
出演：ヴェルディ音楽院より(指揮)、相愛オーケストラ
- 相愛高等学校音楽科卒業演奏会  
3月10日(土)13:30～  
本学本町学舎講堂  
入場無料  
出演：本校音楽科卒業生選抜者
- 相愛ウィンドオーケストラ  
第5回ポップスコンサート  
3月11日(日)14:00～  
本学南港ホール  
入場無料  
指揮：若林義人  
出演：相愛ウィンドオーケストラ
- 相愛中学校卒業奉告参拝  
3月16日(金)  
本願寺津村別院(北御堂)
- 相愛中学校卒業式  
3月17日(土)  
本学本町学舎講堂
- 第13回相愛オーケストラC組D組発表演奏会  
3月17日(土)18:45～  
本学本町学舎講堂  
入場無料
- 相愛大学卒業式  
3月19日(月)  
本学南港ホール  
入場無料  
出演：音楽学部卒業生
- 相愛大学卒業演奏会  
3月20日(火)  
本学南港ホール  
入場無料  
出演：音楽学部卒業生
- ミニオープンキャンパス  
3月20日(火)
- 相愛大学卒業演奏会  
3月23日(金)  
いずみホール  
入場無料  
出演：音楽学部卒業生
- 相愛中学・高等学校吹奏楽部 第1回定期演奏会  
3月24日(土)13:30～  
本学本町学舎講堂  
入場無料  
出演：相愛中学・高等学校吹奏楽部・吹奏楽部OG
- 北御堂相愛コンサート  
3月29日(木)12:25～12:45  
本願寺津村別院(北御堂)本堂  
入場無料

### 2012年度 入試日程

| 相愛大学入試日程           |                             |                   |  |          |
|--------------------|-----------------------------|-------------------|--|----------|
| 学部                 | 種別                          | 出願受付期間            | 平成24年度試験日  | 合否発表     |
| 音楽                 | 一般A入試<br>音楽学科<br>音楽マネジメント学科 | 1月6日(金)～1月19日(木)  | 2月1日(水)・2日(木)  | 2月8日(水)  |
|                    | 一般編入学後期試験                   |                   | 2月1日(水)  |          |
|                    | 音楽専攻科入試                     |                   |  |          |
|                    | 社会人特別入試(音楽マネジメント学科のみ)       |                   |  |          |
|                    | 一般B入試                       |                   | 2月9日(木)～2月29日(水)<br>3月8日(木)～3月19日(月)<br>3月21日(水)と3月22日(木)<br>の正午まで窓口にて受付 |          |
| 一般C入試              |                             |                   |  |          |
| 人文・人間発達            | 一般A入試<br>(本学会場)<br>(岡山入試会場) | 1月10日(火)～1月23日(月) | 1月29日(日)   | 1月31日(火) |
|                    | 社会人特別入試                     |                   |  |          |
|                    | 一般編入学後期試験                   |                   |  |          |
|                    | センター試験利用A入試                 |                   | 1月19日(木)～2月2日(木)   | 2月9日(木)  |
|                    | 一般B入試                       |                   |  |          |
|                    | ファミリー後期入試(人間発達)             |                   | 1月30日(月)～2月13日(月)  | 2月18日(土) |
|                    | センター試験利用B入試                 |                   |  |          |
| AO入試(人文)           |                             |                   |  |          |
| 一般C入試              |                             |                   |  |          |
| 寺院特別推薦C入試(人文・人間発達) | 2月24日(金)～3月12日(月)           | 3月17日(土)          | 3月22日(木)   |          |
| センター試験利用C入試        |                             |                   |  |          |
| AO入試(人文)           |                             |                   |  |          |

●お問い合わせ先 相愛大学 入試課  
 電話 06-6612-5900 FAX 06-6612-6090

| 相愛高等学校入試日程 |                   |       |  |
|------------|-------------------|-------|--|
| 普通科        | 1次入試              | 15次入試 |  |
| 受付         | 窓口受付              | 予定あり  |  |
| 出願期間       | 1月23日(月)～2月3日(金)  |       |  |
| 試験日        | 2月10日(金)          |       |  |
| 音楽科        | 受付                |       |  |
| 受付         | 窓口受付              |       |  |
| 出願期間       | 1月23日(月)～2月3日(金)  |       |  |
| 試験日        | 2月10日(金)、2月11日(土) |       |  |

| 相愛中学校入試日程 |          |          |          |
|-----------|----------|----------|----------|
|           | A日程      | B日程      | C日程      |
| 受付        | 窓口受付     | 窓口受付     | 窓口受付     |
| 出願期間      | 1月6日(金)  | 1月6日(金)  | 1月6日(金)  |
| 試験日       | 1月13日(金) | 1月14日(土) | 1月16日(月) |
| 試験日       | 1月14日(土) | 1月15日(日) | 1月16日(月) |

●お問い合わせ先 高中入試広報部  
 電話 06-6262-0621 FAX 06-6262-0534

### ●編集後記

3月11日、東北地方で発生した大震災に遭遇された方々に心からお見舞い申し上げます。地震のみならず、津波に襲われて命をなくされた方々、さらに原子力発電所の事故によって9カ月たった今なお寒空の下に不安な日々を過ごされている方々のお気持ちを思うと、その悲しみやつらさはどれほど深いものか、想像に余りあります。

いよいよ記念すべきファミリア20号をお届けできる運びとなりました。本年も多岐にわたる行事や講演、シンポジウムを行ってまいりました。その活動のすべてをご存知していただくことはできませんが、相愛学園の今を知っていただきたいと、限られた紙面の中で報告をさせていただきます。これらの活動を運営し、支えてくださり、また、本誌の完成を目指してお力を注いでくださいました多くの教職員の皆様にも、心より感謝申し上げます。こうして編集後記を書かせていただいている

今、本年度より始まりました本町校舎の工事も進み、形をなしつつあります。そして来春、音楽マネジメント学科本校舎が本町に完成し、講義も始まります。相愛学園のさらなる飛躍をめざし、中学校、高等学校、大学が連携をし、学内の諸活動を推進していくための情報の記録と公開、共有の場としてこの「ファミリア」がますます活性化されますよう、今後とも引き続き皆さまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。(太田)

「10年、20年と歌い継がれていく曲を作りたい」。多くのメジャーアーティストに楽曲を提供し、現在は作家名「KAY」として作曲家、編曲家として活躍する井手上慶さん(27)。大学時代にはぐんだ「プロの音楽家になる」という夢を見事に実現させ、今秋から活動拠点を大阪から東京へ移し、さらに大きな舞台へと羽ばたいています。

## 大学で学んだすべてが音楽家としての財産に



### 井手上 慶さん

作曲家、編曲家  
2008年相愛大学音楽学部卒業

社会で活躍する卒業生

#### 「音楽を一生の仕事に」

卒業を間近に控えていた頃、「やりたいことは音楽しかない。音楽を職業にしよう」と決意。卒業後は音楽教室で作曲や編曲を教えながら、曲作りを続け、「アリガトウ」で一挙にブレイクしました。

「大学ではソルフェージュなどのほか、リコーダーの授業もありましたが、学んだことのすべてが今につながり、どこかで役に立っています。後輩には『相愛大学の授業はすごい財産になる』ということ伝えてほしいですね」

今秋、東京進出を果たし、決意を新たにしています。

「今は韓国のアーティストやアイドルの歌が流行っていますが、流行が終わるのは早い。多くは日本人として、歌謡曲というか歌謡メロディーを大事にしたい。たとえば筒美京平さんや織田哲郎さんの曲は今も歌い継がれている。流行がすぐ終わる時代だからこそ、10年、20年残っていく曲を作りたい」

今、許先生の『嫌なことがあっても、とりあえず笑顔でいなさい』という教えが、プロの音楽家として生きていく井手上さんの支えになっています。

#### ドラマの主題歌でブレイク

2009年、若者に人気のグループSonar Pocketと、井手上さんは「アリガトウ」という楽曲を共同制作しました。この曲はテレビ朝日系ドラマ「コールセンターの恋人」(小泉孝太郎主演)の主題歌となり、一躍注目を集めました。その後、さまざまなアーティストに楽曲を提供する一方、ピアニストとしてSonar Pocketの全国ツアーにも参加しています。「『アリガトウ』が転機でした」と語る井手上さん。しかし、才能を開花させるまでの道のりには紆余曲折がありました。

大阪府豊中市の高校を卒業後、海外留学の資金を稼ぐために運送会社で働いていた時、相愛大に進学した高校時代の友人と街でばったり再会。井手上さんは3歳から高校に入る頃までピアノを習っており、友人と話すうちに改めて音楽への想いが沸き上がってきました。友人から相愛大非常勤講師の許真弓先生を紹介してもらい、作曲の勉強をスタート。そして周囲の勧めもあり相愛大に入学しました。

#### 相愛大で過ごした充実の4年間

「作曲の経験が浅いま入学したので、最初は苦勞しました。音楽の勉強もピアノ以外は大学に入ってからスタートという感じでした」

相愛大は何事にも積極的な学生が多く、に



ぎやかで楽しい環境だったといいます。さまざまな楽器を専攻する友人たちとの交流を通して、幅広いジャンルの音楽に触れることができたとも。

作曲専攻(映像と音楽コース)(現ヴィジュアル・ミュージック課程)だったため、映像についても学びました。

「プロモーションビデオを作るため、ビデオカメラでキャンパス内を撮影したりもしました。充実していて、あっという間の4年間でした」

4回生の時、読売新聞主催の「阪神大震災メモリアルコンサート」で、自ら作詞作曲した「あの日から、僕らは」がテーマ曲に選ばれました。大震災当時、小学生だった井手上さんは大阪府箕面市の自宅で、父のベッドの下に母といっしょに逃げ込みました。当時の状況を思い出しながら、阪神高速の倒壊現場なども訪れて、曲想を得たといいます。



## 東日本大震災チャリティーイベント

### 学生がコンサートの裏方を初体験

#### チャリティーイベント 第1回



清塚信也  
ピアノリサイタル

本年度、音楽学部新しい学科、「音楽マネジメント学科」が開校いたしました。4月に入学した1回生が、さっそく第1弾イベント「清塚信也ピアノリサイタルin相愛大学」を運営主体となって開催いたしました。この公演は、音楽マネジメント学科の学生が、企画、制作、運営管理を主体的に行い、コンサートそのものを創り上げるということはどういうことなのかの学びの第一歩となりました。三木楽器店(株)のご協力により、ドラマの吹き替え演奏などで人気のある若手ピアニスト清塚信也氏の招聘が実現しました。

受付から司会、チラシやプログラム制作と事前準備から当日の運営まですべて学生の手作りでした。至らない点はありませんでしたが、USTREAMでの生中継は5,000弱の視聴数、東日本大震災にて被災された皆様のために集めた義援金は7万3630円にもなり、日本赤十字社へ寄付させていただきました。一人ひとりの力を合わせることで、たくさんの人たちに音楽を楽しんでもらい、募金も集めることができることを実感できました。

このイベントを礎に、次回、次々回と実践

## 第1回、第2回は、音楽マネジメント学科1回生が企画、制作、運営に大奮闘!

を重ねることで、何を学んでいかなければならないのかを自覚し、「自ら考えて動く」ことのできる学生になってもらえるように、教職員一同、改めて精進していきます。

なお、12月18日には本町講堂にて「音楽のシゴト—僕らが見つけた未来—」と題したイベントを吉本興業様協力のもと企画しております。企画脚本も含め、学生が主体的に準備を進めています。4月より少し成長した舞台を提供できると思いますので期待ください。



#### 演奏、朗読、寄席の共演!

#### チャリティーイベント 第2回

#### 東日本大震災慈善公演「少しのちから」

5月25日、相愛チャリティーイベントシリーズの第2回目となる東日本大震災慈善公演「少しのちから」が本町学舎の講堂にて開催されました。

歌舞伎俳優の嵐圭史氏、落語家で本学の客員教授でもある桂春之輔氏が出演者とし



て協力していただきました。また、今年4月より開設された音楽マネジメント学科1回生の学生が、演出の企画、構成や当日の準備、運営を担当しました。

演目は、本学の教員と学生による「アンサンブル演奏会」、嵐氏による「朗読とおはなし『歎異抄』」、桂春之輔氏、桂春之輔氏による落語「相愛寄席」の3部構成。第1部では、本学の児嶋一江教授によるピアノソノの庄巻の演奏パフォーマンスに一同聴き入りしました。斎藤建寛教授と林裕准教授によるチェロのデュオの温かい音色に感極まり涙を流す来場者も。飯塚一朗教授と音楽学部学生による金管アンサンブルの演奏はパワフルで、未来への希望に満ちあふれていました。第2部の「朗読とおはなし『歎異抄』」では、歎異抄に関する解説の後、第1章から10章までを朗読していただきました。普段なかなか耳にすることのない歎異抄を肌で感じたひとときでした。第3部の「相愛寄席」では、桂春之輔氏の「鰻の肴間」、桂春之輔氏の「転失気」が披露され会場が大きな笑いに包まれました。約300名の来場者からご協力いただいた義援金24万5912円は、本願寺を通じて被災地復興のために全額を寄付しました。



## チャリティーイベント 第3回 本学ゆかりのプロ結集

#### 相愛フィルハーモニア

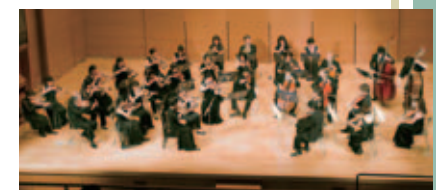


相愛大学では、東日本大震災被災地の皆さまに対し、少しでも力になりたいという思いから、相愛大学主催によるチャリティー公演を、8月1日に本町学舎講堂で開催されました。

相愛オーケストラの呼びかけで、相愛で学び、全国で活躍するプロオーケストラ団員や、相愛学園教員が中心となって「相愛フィルハーモニア」が特別編成され、2部構成の演奏会が行われました。

第1部では、W.A.モーツァルトのディヴェルティメント 二長調K.136、A.ヴィヴァルディの二本のチェロのための協奏曲 ト短調、そして芥川也寸志のトリブ

ティーク(弦楽の為の三楽章)が、第2部では、W.A.モーツァルトの交響曲第29番 イ長調K.201が演奏されました。約440名の来場者からは、洗練されたプロの演奏家たちの音色に、惜しみない拍手が送られました。集まった義援金30万9643円は、本願寺を通じて被災地へと送られました。





相愛大学 × 府立急性期・総合医療センター × 森ノ宮医療大学

相愛大学は11月5日、大阪府立急性期・総合医療センターとの連携事業として、シンポジウムを大阪市住吉区の同センターで開催しました。第2回目を迎えた本年度のコラボレーションには、相愛大学とともに同センターと包括連携協定を結んでいる森ノ宮医療大学も参加。会場を埋めつくした約200名の参加者の皆さんは最後まで熱心に聞き入っていました。

シンポジウム記念コンサートとして、オープニングを飾ったのは相愛大学卒業生による弦楽四重奏ユニット「Dolce(ドルチェ)」。

クラシックや童謡など美しいハーモニーを披露しました。続いて、大阪府立急性期・総合医療センターの吉岡敏治院長と相愛大学の金児暁嗣学長が開会の挨拶を述べました。吉岡院長は「良質な医療サービスの提供とともに良き医療人を育成する」というセンターの方針について語り、金児学長は「学外連携を進め、もっと多様な活動に挑戦したい」と決意を新たにしました。

基調講演として、相愛大学人文学部の積徹宗教授が「日本文化から見た生命のやすらぎ」というタイトルで、自ら代表を務める認知症高齢者のためのグルー

プホームの例なども交え、日本文化における死生観、豊かな臨終のイメージを持つことの大切さなどについて語りました。

関連講演の1講目として、森ノ宮医療大学保健医療学部の坂出祥伸教授が、老荘思想、気概念など「東洋医学の身体観、人間観」について、西洋医学の身体感と対比しながら解説。第2講目は大阪府立急性期・総合医療センターの田中康博副院長による「終末期医療の課題と展望」。がん治療の最前線紹介のほか、医療の充実を図るためにはかかりつけ医、リハビリ施設との連携が欠かせないことなどを力説しました。

プログラム後半は、コーディネーターに毎日放送の大谷邦郎氏を招き、基調講演・関連講演の講師3名



# 生と死を 見つめ直すために 医療と宗教の新たな 取り組みをめざして

連携シンポジウム

350g



量って実感  
「1日野菜350g」  
糖尿病予防セミナー

相愛大学 × 府立急性期・総合医療センター コラボレーション企画



に5名のパネリストが加わってディスカッションを行いました。各パネリストは「やすらぎのがん医療の実現に向けて—課題と提言—」というテーマに即し、それぞれの立場から研究内容や体験などを語りました。

コーディネーターの「がん治療は以前ほど痛くなくなってきているのか?」という質問に対しては、同センターの吉田洋・緩和ケアチーム長は「痛みの緩和はクサリを組み合わせれば統御ができる可能性が上がった」と答え、森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科の山下仁教授は、鍼灸を活用して鎮痛剤の投与を減らした症例などを紹介しました。また、同センターがん患者会「ひまわりの会」の山田義美会長からは「もし効果があるなら東洋系の治療も試してみたい。そのため、お医者さんの適切なアドバイスがほしい」という率直な意見が出ました。関連講演の講師である坂出教授は、東洋思想の「気」を免疫の活性化の視点から解説しました。

「末期がんのケアで重要な点は?」という問いに、同センター緩和ケアチーム看護師長の嶋路紀子氏は「患者さんとその家族の良き援助者であること」を心がけていると語り、相愛大学客員教授で大蓮寺住職・應典院代表の秋田光彦氏は「最期を迎える準備をするために『死のイメージトレーニングをする場』として、皆が体験を分かち合う場が必要だ」と述べました。同センターの田中副院長はコミュニティを中心とした地域でのケア活動の重要性を指摘、さらに相愛大学の積教授からは、地域のベテラン人材を活用すれば活動はさらに充実するのではとの提言がありました。

締めくくりのまとめと挨拶では、同センターの名誉院長で森ノ宮医療大学の荻原俊男学長が「患者さんと医療人、地域の皆さんがきずなをはぐみ、心のケアに取り組んでいかねばならない」と締めくくりました。4時間以上にわたる催しでしたが、中身の濃い議論となり、参加者の皆さんは最後まで熱心に聞いておられました。

大阪府立急性期・総合医療センター(大阪市住吉区)と相愛大学とのコラボレーション企画「糖尿病予防セミナー」の第2回目が11月12日に同センターで開催されました。会場には、学生たちが考えて作ったパネルがいたるところに展示され、注目を集めました。同センター糖尿病代謝内科の馬屋原豊部長による挨拶で開幕、昨年度を超える大勢の方にお越しいただきました。

相愛大学学生と教員が考えた体験学習コーナーには、食育SATシステムによる食事診断、In Bodyによる体脂肪測定に加え、今年新たに「野菜コーナー」を設けました。1日に取っていたきたい野菜350gの量がどれくらいか、来場者に量っていただきました。「自分で量ることによって野菜の量がよくわかった」と大好評でした。

学生たちが考えて作った「糖尿病予防レシピ集」も野菜がテーマ。受け取った来場者にはとても喜んでいただけました。学生たちにとってこのセミナーは、医療の現場での貴重な体験となりました。ご参加くださった皆さま、ありがとうございました。



## ゲストにアンドレ・アンリ氏

### 相愛大学ウィンドオーケストラ 第33回定期演奏会

7月7日、尼崎市総合文化センターアルカニックホールで、相愛大学ウィンドオーケストラ第33回定期演奏会が開かれました。欠かさず大曲に挑んできたポリシーは今年も引き継がれ、没後50周年にあたるグレインジャーの長大な作品「ローマの権力とキリスト教徒の心」やバーンスタイン「シンフォニック・ダンス」など、調和の取れた響きとテクニックで聴衆を魅了しました。さらにジュネーヴ国際音楽コンクール優勝者、アンドレ・アンリ氏をゲストに迎えたトランペット協奏曲では、華やかさのなかにも甘く美しいその音色に遜色なく答え、場内を沸かせました。爽り多いそして楽しく心に残る演奏会となりました。

#### 第1部

- 酒井格 / たなばた
- 堀田庸元  
／マーチ「ライヴリー アヴェニュー」
- 新実徳英 / シャコンヌ S
- グレインジャー / ヒルソング第2番
- グレインジャー  
／ローマの権力とキリスト教徒の心

#### 第2部

- ジェイガー / シンフォニアノビリッシマ
- ファイユノー  
／トランペットと吹奏楽のための小協奏曲
- バーンスタイン / シンフォニック・ダンス



## 高い指導力を実感

### 五嶋みどり先生ヴァイオリン公開レッスン

昨年度本学客員教授に就任された五嶋みどり先生のヴァイオリン公開レッスンが6月22日、相愛大学南港ホールにて行われました。8歳にしてジュリアード音楽院の名教授、ドロシー・テイレイ氏にそのたくいまれな才能を発掘され、11歳でズービン・メータ指揮ニューヨーク・フィルハーモニックとパガニーニの「ヴァイオリン協奏曲」で劇的なデビュー。以来世界的ヴァイオリニストとして活動される一方、「みどり教育財団」「パートナーズ・イン・パフォーマンス」などの社会事業を展開されている五嶋先生。レッスンは一般公開で午前9時半という早い開始時間でしたが、長蛇の列でした。受講生は清永あやさん、坂茉莉江さん、奥谷陸代さんの4回生3名。五嶋先生もヴァイオリンを手にしてレッスンされ、マイクを使わない声が会場に響きわたりました。受講生のレベルの高い演奏にじっと耳を傾け、彼女らの奥にあるものを発掘しようとする熱心さが言葉とヴァイオリンの音になってほばりました。五嶋先生の音楽の深さと指導力のレベルの高さが感じられ、音楽の学びに終わりが無いことを再認識する素晴らしい3時間でした。



## パイプオルガンと一体の華やかな響き

### 相愛オーケストラ第56回定期演奏会

10月3日、大阪市北区のザ・シンフォニーホールにて「相愛オーケストラ第56回定期演奏会」が開催されました。円光寺雅彦氏、小林恵子氏、酒井睦雄氏の指揮のもと、日頃の練習の成果をいかに発揮し、満員の聴衆の大きな拍手を受けていました。パイプオルガンを伴う交響曲という初の試みも、重厚なパイプオルガンとオーケストラが一体となり、ホールいっぱいに華やかな響きが広がりました。

- バルトーク  
弦楽のためのディヴェルティメント
- サン＝サーンス  
交響曲第3番八短調 作品78「オルガン付き」
- ファリャ  
バレエ音楽「三角帽子」第2組曲
- ヴィヴァルディ  
合奏協奏曲「調和の靈感」第3番ト長調



## 重厚な曲風が聴衆を魅了

### 大前哲教授 作曲賞受賞記念特別演奏会 相愛大学ウィンドオーケストラ

11月21日、大前哲教授(相愛大学音楽学部学部長)が数々の名誉ある作曲賞を受賞されたことを記念して、相愛大学ウィンドオーケストラによる特別演奏会が開かれました。



たことでしょう。演奏会当日は、多くの教え子たちや一般の来場者が訪れ、迫力ある重厚な曲風に心奪われている様子でした。来場者の大きな拍手で舞台上上がった大前教授は、挨拶で、「今回の演奏会は、私が主役ではありません。作曲する際、学生たちが演奏するには、非常に難しいものになると分かっていましたが、あえて妥協しませんでした。今回の演奏会で、それを見事に演奏しきったすべての学生たちが主役です」と讃えられました。また、「抽象性の高い音楽では、理解しようとするのではなく、何を感じ取ることが出来るのかという観賞力が大切なのです」と音楽家の道を目指す学生たちに、温かくも強いメッセージを伝えられました。

大前教授は、2010年度には、「国際ウィンド・アンサンブル作曲コンテスト2010」(ベルギー)で第2位、「GERMI賞・国際作曲コンペティション2010」(イタリア)で第3位を受賞。そして本年度は、「ICA国際作曲コンペティション2011」(アメリカ)にて第1位、さらに「Egidio Carella国際作曲コンペティション2011」(イタリア)でも第1位に輝くという快挙を成し遂げられました。この度の受賞は、大前教授のもとで学ぶ学生たちにとっても、大きな誇りと励みになっ

# 人文科学の挑戦

人文学部 シンポジウム シリーズ

昨年度から統一テーマ「人文科学の挑戦」シリーズとして開催してきた、人文学部主催のシンポジウムの第3回目が、6月24日午後6時より相愛学園本町講堂に数多くの来場者を迎えて行われました。

今回は、「生き抜くための人間学・大震災をきっかけとして」というタイトルで、メディアでもおなじみのポップな精神科医・名越康文氏、歌によって宗教の枠を超える牧師・川上盾氏、日本古代史プロパーの山本幸男本学人文学部長がパネリストとして登壇。人文学部教授の釈徹宗氏がコーディネーターを務めました。

3月に起こった東日本大震災と福島第一原子力発電所事故によって、私たちは「国のあり方」「地域のあり方」「生き方」「暮らしぶり」などを、もう一度考えなければならない状況に立たされています。それは、人間の営みすべてを幅広く横断的にとらえ直す必要があるということです。こんな時だからこそ、「人間とは何か」「人が共によりよく生きるためにはどうすればよいか」という根本問題と向き合う人文科学の存在意義と真価が問われるのではないのでしょうか。名越氏、川上氏の熱のこもったトークで、大いに



精神科医 名越康文  
人文学部長 山本幸男  
牧師 川上盾  
人文学部教授 釈徹宗

議論が盛り上がりました。きとお越しいただいた多くの皆さんも、ちょっとした言葉一つからでも「生き抜く力」や「考えるヒント」を受け取ってくださったのではないのでしょうか。このシンポジウムを通じ、私たちは単にさまざまな苦難の中にある人々に寄り添うだけでなく、逆にそうした人々との出会いによって大切なことを教えられるご縁になるのだ、ということへの目覚めになってほしいと念じてやみません。

トークセッションの後半では、客席にいられていた平松邦夫大阪市長が壇上に招かれ、ユーモアたっぷりに名越氏に語りかけるというサプライズもありました。もちろん会場が大きな笑いの渦に包まれたことは、いうまでもありません。

釈氏は当時をふりかえり、「今回のシンポジウムは、人文学部の学生によって運営されました。本当によく頑張ってくれたと、うれしい限りです。シンポジウムの最後に、学生スタッフの皆さんを壇上で紹介させていただきましたが、出演者や来場者の方々から惜しめない拍手が送られましたことは、学生たちの大きなはげみとなることでしょう」とコメントされました。

## 第3弾 「生き抜くための人間学」追究



### 次号お知らせ ▶ 相愛大学 集中講義 「原発と仏教」

2011年9月8日(木)、9日(金)、10日(土)に行われた宗教学者、中沢新一氏による初の仏教講座について特集する予定です。

#### 学生スタッフのコメント

司会成し遂げ感謝  
人間心理学科 4回生 石井みお



司会や出演者アテンドとしてシンポジウムの学生スタッフに参加させていただき、新しいことが苦手だった私ですが、成し遂げられた喜びを学び、新しいことにチャレンジして経験を積んでいきたいと思えるようになりました。失敗や至らないところもありましたが、先生方、会場の皆さまの温かな拍手やお言葉に支えられ、務めることができました。これを支えに、これから社会の一員として貢献していきたいと強く感じています。また、著名な先生方の講演を拝聴し、生きていく中での難問のヒントや知恵を教わり、貴重な経験となりました。今は感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。



10月29日、相愛学園本町学舎の講堂でシンポジウム「不安な時代を生きる技法」が開催されました。

パネリストは、精神科医の香山リカ氏、本学客員教授で浄土宗大蓮寺住職・應典院代表の秋田光彦氏、本学教授の釈徹宗氏。コーディネーターは、毎日放送アナウンサーの西靖氏です。1時間30分にわたって活発な意見交換が行われました。

このシンポジウムは、相愛大学人文学部が「人文科学の挑戦」と題して、昨年度から開催しているシリーズの第4弾です。3月11日の東日本大震災から7カ月が過ぎ、住宅環境などの復興が進む一方で、なかなか収束の目途がたない原発問題をはじめ、今後の生活スタイルに明確な方向性を見出せないまま、漠然とした不安のなかにある私たちではないのでしょうか。不安のメカニズム、現代特有の悩みなどについて、さまざまな場面で活躍するパネリストに語り合っていました。

香山氏は、テレビ、新聞、雑誌などで幅広く活躍し、テレビゲームなどのサブカルチャーにも関心をもっておられます。臨床経験を活かして、現代人の心の病に真正面から向き合っておられます。秋田氏は、日本でいちばん若者が集ま

るお寺として有名な、大阪市・下寺町の應典院の代表です。劇場型寺院應典院を拠点として、市民活動や若者の芸術活動を支援しています。釈氏は、一連の相愛大学人文学部シンポジウムを企画運営し、「漠然とした不安」「目に見えない恐怖」と「心の安定」などをテーマに、今回のパネリストに意見を求められました。西氏は、情報番組「ちちんぷいぷい」の総司会として活躍中で、テレビ・ラジオなどのメディアに携わっている経験を踏まえて、シンポジウムを進行してくださいました。

シンポジウムの翌日に、行われる大阪マラソンに参加する西氏は、走り切ることができるかどうか不安を抱えていると、議論の口火を切られました。西氏の軽快で安心感のある雰囲気のおかげで、各パネリストから、飾り気なく積極的な発言が行われました。

現代社会の構造は、不安が増幅しやすい状況にあります。便利な生活を追い求め、上昇志向であった社会が行き詰まりを見せ、視点の転換をせまられています。しかし、「昔はよかった」という懐古の議論ではなく、現状をいかに生き抜くかを考えなければなりません。各氏はそれぞれの体験から、新しい視点へのヒントと

なる事例をご紹介くださいました。

儀礼や作法といった長年積み上げられてきた形式には、心の安定に何らかの影響を与える役割があるのではないかと、との提言がありました。さらに、心の悩みのメカニズム解明に向けて検討を進めると、不安とは必ずしも捨てるべきものとはいえないのではないかと、不安によって開かれてくる新しい扉があるのではないかと、議論は展開しました。

西氏は、マラソンが人生に例えられることから、大阪マラソンに対する不安も、捨てるのではなく、不安があること自体を大切な人生の

精神科医 香山リカ  
人文学部教授 釈徹宗  
浄土宗大蓮寺住職 秋田光彦  
毎日放送アナウンサー 西靖

## 第4弾

# 「不安な時代」どう生きる

一コマと受け止めて明日を迎える気持ちになれたことを告げて、結びとされました。

シンポジウムの最後に、一生懸命、準備・運営に励んでくれた、本学人文学部の学生が壇上に上がりました。緊張のなかにも、いろいろな経験を重ねて、着実に歩みを進めている姿を見せてくれました。

楽しい雰囲気の中に、さまざまな視座が提示され、有意義なシンポジウムとなりました。社会、生活、環境、そして心。これらを考えるとき、2011年は大きな転換点となる年になるかもしれません。

#### 有意義な学生生活の糧に

日本文化学科 3回生 三宅晃



今回は人文学部の学部紹介でシンポジウムのお手伝いをさせていただきました。人文学部の紹介は、パワーポイントで、学内の様子で表示しながら口頭で説明するという形式で行いました。当日の発表は比較的落ち着いてできたのですが、最初に依頼されたのは8月なのに、部活動や委員会が忙しく、に依頼されたのは8月なのに、部活動や委員会が忙しく、準備に取りかかったのは間際で、思うようにパワーポイントが作れず、少し残念です。写真を収集しながら日々を振り返るきっかけにもなり、今後、有意義な学生生活を送りたいと思います。数百名の聴衆を前に話をし、日常では体験できない機会を与えてくださり、拙い発表を聞いてくださった方々に感謝申し上げます。



裏方としてシンポジウムの運営を支えた学生スタッフにも惜しめない拍手が

人間発達学部  
子ども発達学科

入口から出口まで——  
面倒見の良い  
教育体制の構築をめざして

おもしろスキルアップ講座開催

子ども発達学科では、学生の就業力育成支援プログラムを継続して展開しており、昨年度の主な取り組みについてはファミリア19号(前号)でご紹介しました。20号では本年度さらにパワーアップさせた取り組みの現状についてお知らせします。

昨年度までの取り組みをベースに、本年度は学科の取り組みテーマを「入口から出口まで面倒見の良い教育体制の構築をめざして」とし、学内における「教育改革推進費」に採択されました。専門職育成のためのスキルアップ講座(おもしろスキルアップ講座)を在学学生はもちろん、保育・教育現場で働く卒業生や地域の保育者も対象にリカレント教育も兼ねて開催しました。現職の卒業生や地域の保育者が11名参加し、在学学生と一緒に楽しく活動しました。



採用試験対策講座も充実

さらに、保育・教育現場への採用試験対策講座も充実させました。学生支援センターが実施しているプログラムに加え、子ども発達学科独自で小学校および幼稚園・保育所に特化したプログラムを開講し、進路を絞り込んだ4回生が採用試験直前の学習に取り組みました。また、3回生に対しても来年度の保育・教育現場の採用試験に向け入門編講座を開講し、現在進行中です。小学校教員採用試験合格者に後輩へのアドバイスをいただきましたので紹介します。

まだまだ本年度のプログラムは進行中です。テーマの通り、学生たちが社会に出て役に立つ社会人として活躍できるよう、最後まで支援して参ります。

柳田あかねさん(4回生)

教員採用試験合格者から  
後輩へのアドバイス

合格までの日々を振り返ると、そこには一緒に教員を志した仲間や、落ち込んだりつまずいたりしたときに励ましてくれた友人、試験対策の講座や面接練習、模擬授業、実技練習など、たくさんのことを教えてくださった大学の先生方、ずっと応援してくれた家族など、多くの人たちの支えがありました。教員採用試験は、自分ひとりの力で乗り越えられない壁であると思います。支えてくれる人をたくさん作ってください。そして、自分自身も多くの人を支えてあげられる人になってください。



木村友哉さん(2011年3月卒業)

私は今年の4月から臨時教員として勤務し、3年生の担任をしています。学年の仕事や事務仕事、教材研究などに追われる日々で、なかなか試験対策のために時間をかけられませんでした。そんな私が今年、教員採用試験に合格できたのは、学生時代からの積み重ねがあったからだと思います。合格のためには、学生時代にどれだけ勉強しているかが大きく影響します。みなさんも在学中にしっかり勉強して、現場に立てるよう頑張ってください。



人間発達学部  
発達栄養学科

「食育のできる管理栄養士」をめざして!!  
学生たちは地域で大活躍!



近畿農政局大阪地域センターと連携  
「マジごはん計画」inアメリカ村  
～あなたをキレイにする大阪産の野菜たち～

食育月間の「食育の日」6月19日、若者の活気あふれる大阪市アメリカ村(通称三角公園)において「マジ(本気)な気持ちでごはん(食)について考えてみよう」をテーマとしたイベントを開催。相愛大学と大阪府立大学の管理栄養士を目指す学生が多数参加し、公園に集まる若者に「マジごはん計画」を推進しました。



豊中市教育委員会と連携  
「給食を残さずに食べよう!」で  
授業を実践

5月に発達栄養学科4回生が、豊中市の小学校の1、2年生を対象に、「給食を残さずに食べよう!」というテーマで、食に関する指導を行いました。学生たちは「子どもたちが反応してくれて、とてもうれしい」「予想以上に子どもたちがわかってくれた」と喜びの声をあげ、無事授業を終えることができました。



人間発達学部公開講座  
好評!! 「メタボダイエット教室」

「メタボダイエット教室」は、大阪府立健康科学センターのプログラム監修のもと、運動・食事・心理など多方面からプログラムを組み、受講者の皆さまのダイエットのサポートを目指し、2006年より開講しています。この講座では、発達栄養学科「卒業研究」の学生が受講生の皆さまの食事調査を担当し、栄養サポートを実学的に学ぶ場にもさせていただいております。受講者の皆さまの温かい励ましのもと、学生たちは栄養学の専門性と実践力を身につけることができます。



大阪秋の大イベント  
御堂筋kappo2011に出展

お天気にも恵まれ、10月9日御堂筋kappoが開催されました。今回初めての参加で、「キッズなんでも体験ストリート」の体験コーナーに「めざせ!きみも食べものはかせ」として、朝食・野菜・おやつをテーマに出展しました。次々にやって来る子どもたちで相愛ブースは大にぎわい。「小さなたべもの博士」がたくさん誕生しました。

たくさん子どもたちが  
来てくれました!!

第9回愛情お弁当コンテストで  
特別賞受賞!!



イズミヤ(株)と大阪府の主催、食品企業18社協賛による第9回お弁当コンテストが6月に行われ、全国より340作品の応募がありました。8月2日の「おおさか食育フェスタ」会場にて府民投票と表彰式があり、発達栄養学科1回生、松永昌子さんの「体の中からきれいになろう弁当」が上位10作品に選ばれ、特別賞を受賞しました。



## 優雅に秋の街並み彩る 高3校外学習

相愛高校3年生による秋の校外学習「着物で歩く御堂筋」が、11月2日に開催されました。当日は残暑を感じさせる秋晴れとなりました。参加した113名の生徒達は、汗ばみながらも、着物に身を包む喜びに胸を躍らせている様子でした。

京都和装産業振興財団に準備していただいた色とりどりの町着「小紋」を、講師の指導のもと着付け、北御堂(本願寺津村別院)で恒例の記念撮影をしました。そして、少しでも大人へ背伸びした姿を見せながら、グループごとに色づいた銀杏並木の御堂筋を散策しました。今どきの高校生が優雅に歩く様子に、行き交うビジネスマンやOLたちは驚いていましたが、御堂筋全体が和やかな雰囲気に包まれていました。

今年で12回目となるこの行事は、日本の伝統文化や学校周辺の史跡、商人の街「船場」を肌で感じてもらう校外学習として始まりました。今や本町界隈の秋の風物詩として注目されるようになりました。そして、御堂筋周辺の大手企業で組織されている「御堂筋まちづくりネットワーク」の協力を得て、希望者を対象にした「御堂筋沿道の企業訪問」も行われるようになりました。今年には16名の生徒達が4組にわかれ、

### 着物で歩く御堂筋



(株)竹中工務店、大阪ガス(株)、京阪神ビルディング(株)、三井住友海上火災保険(株)の4社を訪問しました。

三井住友海上火災保険(株)を訪問したグループは、同社関西総務部の長谷川憲一副部長から、企業が求める新入社員、就職活動の心構え、面接で企業が聞きたいこと、企業が求める大学生活などの説明を受けました。大学生生活を前に控えた生徒達は、真剣な面持ちで聞き入っていました。

## 理解度チェックで学力向上 高1・高2 特進コース学習合宿

7月29日から8月1日までの4日間、奈良県桜井市の多武峰観光ホテルにおいて合宿を実施しました。昨年度より1泊増えた学習合宿では、英語、国語、数学の3教科で授業50分×2、課題と自習で60分、理解度チェックで30分を一つのサイクルとして行いました。1教科3サイクルで学習内容の定着と学力向上を目指しました。



授業内容が理解できているかどうかを理解度チェックを通して確認し、苦手な部分や分からない部分があれば、自習時間に質問したりして克服するよう努力しました。普段の授業のスタイルとは異なり、環境も違う中で勉強することは、いい刺激になったと思います。最後になりましたが、今回の合宿ではたくさんの先生方やホテルの方にお世話になり、保護者の方のご理解、ご協力のもと無事に終わることができましたことに感謝いたします。

## 急がば回れで自信取り戻そう 通年講座「マナトレ」がスタート



「マナトレ」とは、「学び直しトレーニング」。今までの学習内容で理解不十分な点を自分のペースでやり直していくことで勉強の土台を固め直し、学力向上につなげることを目的としています。

教材は英語、国語、数学の3教科。それ

ぞれに基礎、標準、挑戦の三つのレベルがあり、各レベルごとに内容を細分化したプリント40枚で構成されています。生徒たちは、朝の礼拝前、昼休み、終礼後、場合によっては自宅に教材を持ち帰って自分の弱点克服に取り組んでいます。問題を解いた後に自己採点し、解説を見ても分からないことがあれば、教員に質問して理解を深めています。早い生徒は全ての教材を終わらせ、学力の定着度合いを確認する認定テストを受験す

る段階です。現在、高校2年生から中学2年生までの希望者51名(高2=12名、高1=19名、中3=10名、中2=10名)が受講しており、申し込みは随時受け付けています。勉強で失った自信は、勉強でしか取り戻すことはできません。急がば回れの精神で、今までの「学び直し」に取り組み、3月には「自信に満ちた私」がいてほしいと願っています。

## 修学旅行 だより

### お土産と思い出両手に 高校修学旅行—北海道

8月30日、関西空港に集合し北海道への修学旅行が始まりました。予報では2日目から傘のマークばかりでしたが、大阪と変わらない汗ばむ天候でした。1日目は、白老アイヌポロトタンで民族楽器の演奏を鑑賞。踊りには数人の生徒も参加しました。昭和新山、洞爺湖を車窓より見学しニセコへ。2日目はニセコでオルゴールBOXや生キャラメル作りを体験し、清流、別尻川でのラフティングで大はしゃぎしました。3日目は小樽でたっぷり4時間の自主研修を実施。両手に大きなお土産の袋を持つ

た沢山の生徒たちの姿が見られました。4日目は雨の中、富良野市のファーム富田で花畑を見学した後、旭川市の旭山動物園へ移動しました。幸運なことに見学中は小雨でした。最終日は台風12号接近の影響で、飛行機が欠航しないか不安を感じながら出発しましたが、条件便(行先の変更がありうる)に搭乗、定刻に関西国際空港に到着しました。台風の影響などご心配をおかけしたことをお詫びし、無事に旅行を終えたことに感謝いたします。

### 平和への思い新たに 中学修学旅行—沖縄



5月8日、関西国際空港を出発して那覇空港に降り立ち、ひめゆり平和祈念資料館へ。平和学習として、HR等であらかじめ沖縄戦について学んだものの、実物大の第三外科壕や病室のジオラマ、遺品、遺影、ビデオ映像を見て皆言葉少なに。平和祈念堂にて元ひめゆ

り生徒隊の方にお話をさせていただくという貴重な経験をし、改めて、平和への思いを強くしました。宿舎は3泊とも2~4名1部屋のホテルです。部屋風呂の使い方、公共マナーも学びました。

2日目は美ら海水族館へ。世界最大の亚克力パネルの水槽で再現された沖縄の海を楽しみました。フルーツランドでの昼食の後、空路で宮古島へ。台風1号の影響による激しい風雨に亜熱帯気候を実体験。3日目はグループに分かれ、平和学習のまとめと発表。その後、バス2台で宮古島の自然、文化を見学しました。貝の博物館見学と貝細



工作り、宮古総合博物館、地下ダム、マングローブ林散策などです。4日目は那覇に戻って世界遺産の首里城を見学し、帰阪しました。

悪天候でマリンスポーツが中止になったのは残念でしたが、全員が無事に日程を終え、成長してくれたことをうれしく思います。

## 第46回大阪市市民表彰 文化功労部門

### 相愛から受賞者続々!

#### 金児学長、 小野名誉教授に表彰 2009年には小栗教授も

産業振興や学術、文化の向上などに尽くした人をたたえる「平成23年 第46回大阪市市民表彰」の文化功労部門に金児暁嗣学長と本学の元学長でもある小野功龍名誉教授が選ばれ、11月8日に大阪市公館(大阪市都島区)で表彰式が行われました。本学からは「平成21年 第44回大阪市市民表彰」でも小栗まち絵教授が受賞されています。金児学長に今回の受賞について語っていただき、小野先生に喜びの声を寄せていただきました。

#### ●金児学長 インタビュー

—このたびの大阪市市民表彰受賞、おめでとうございます。まず、ご感想をお聞かせください。

**金児** 優れた研究者が大勢おられるなか、名誉ある賞をいただき、大変光栄に思っています。私は2004年から6年間、大阪市立大学学長を務めました。この間、06年度からは公立大学法人の理事長として、学長を兼務しましたが、専門分野の宗教心理学での実績だけでなく、公立大学法人化の実現など大学改革に力を注いだことも評価していただいたと仄聞しています。また本学からは今回の私と小野先



金児暁嗣 学長

生、2年前の小栗先生と受賞が続いており、本学のレベルの高さを示すことができました。—高く評価された大阪市大での大学改革はどのようなものだったのですか。

**金児** 大阪市大の学長就任時、法人化に反対意見や慎重意見が多く、公立大学法人化実現の見通しは立っていませんでした。法人化すれば「重点研究への傾斜配分」など柔軟な予算編成や大学独自の人事が可能になり、大学の特色を出すことができます。世界の大学と競争している理系学部は「早く実現を」という声が多かった半面、文系学部には「学部自治が失われる」との反対意見が渦巻いていました。そこで法人化のメリット・デメリットを一覧表にし、「デメリットをどう克服していくか」を評議会で丁寧に説明し理解していただきました。

### 「若い研究者の励みに」

法人移行後は、中期計画を各年度に落とし込み、きちんと実現していくことで、法人体制を定着させました。

—大阪市大での経験を本学でどう生かしておられるのでしょうか。

**金児** 大学経営という面では国公立も私立も同質です。ただ私立は「建学の精神をどう具現化していくか」が大学改革のポイントになります。少子化の中で大学間競争を勝ち抜くため、本学でも改革に取り組んできました。大学には教育・研究・地域貢献の三つの役割がありますが、私は「大学改革イコール教育改革」と考えています。そこで先生方には「まず教育に力を入れてほしい」とお願いしています。また着任時、本学には国公立大の中期計画、将来構想にあたるものがありませんでした。そこで昨年6月、将来構想策定委員会を発足させ、今年3月の大学評議会で構想の承認を得ました。—研究者の立場からの受賞のご感想も。

**金児** 宗教心理学の領域は研究者が少ないので、今回の受賞が若い研究者の励みになればうれしいです。宗教心理学のテキストは60年前のものしかなかったのですが、今年11月に私が監修して『宗教心理学概論』を出しました。現在は大学経営にかかわり、十分な研究時間を取ることができませんが、宗教心理学の進展を願ってやみません。

#### ●喜びの声



### 浪速の雅楽 認められうれしい 小野功龍名誉教授

1000年の歴史を持つ浪速の雅楽の存在を認識していただいたことに大きな喜びを感じています。また、この賞は私の背後にあって伝承と演奏に精進してくれる天王寺楽所雅楽会のメンバー全員がいた

いたものと思っております。金児学長と同じ文化功労の賞をいただけたことにご縁の不思議さを感じております。

昭和37年(1962年)より、大学音楽学部では授業に雅楽実習を取り入れました。今では全学生対象の開放科目となっています。現在、天王寺楽所雅楽会で数名の相愛卒業生がメンバーとして活躍しています。西洋音楽と雅楽は、音楽語法がまったく異なります。指揮者の管理を持たない雅楽のアンサンブルは、個性ある楽器が同心円的に音響を立ち上げる不思議さ、人間の生理的衝動にも似た微妙で自由なリズム

ムやテンポに特徴があります。雅楽習得を目指す人々にとって、既知の音楽にはない新鮮さを感じられるのかもかもしれません。

雅楽の世界では、若い後継者が次々と育ってくれているので、今のところ安心しています。伝統の形を真似る、すなわちコピーをすることは現代において至極簡単なことです。しかしその伝統を伝えてきた歴史的背景や、伝えてきた人々の心までコピーすることは不可能です。そのことが忘れられた伝統文化は存在し得ません。その点の理解を促すものかこそが教育というものではないでしょうか。



#### ●過去の受賞者

本学からは小栗まち絵教授が「平成21年 第44回大阪市市民表彰」を受賞されています。



## 相愛寄席

# 笑いの渦!

## 「出演者×観客」寄席で

11月17日午後6時半から、相愛学園本町講堂で「相愛寄席・桂春團治一門による『落語文化への誘い』」が開かれました。昨年大好評だった「相愛寄席—春團治・春之輔親子会—」に続く第2弾で、学生から中高年の方まで、幅広い年齢層の約500人が寄席を楽しみました。

### 公開授業の一環

この寄席には、一般の方も聴講できる人文学部後期講義科目「日本文化特殊講義2～落語文化への誘い～」を履修している学生や一般受講者約100人が正課の授業として「出席」。

授業を担当しているのは、人文学部の積徹宗教授や桂春之輔客員教授などです。積教授の芸能に関する講義のほか、教壇に高座をしつらえて落語を聞くこともあります。積教授が冒頭のあいさつで受講者に即席でインタビューし、「出会いが広がる」「毎回笑わせてもらっている」と授業の満足度が高いことを紹介しました。

### 多彩な演目次々に

トップバッターは桂春之輔氏で、目を患った男が医者を訪ねてハチャメチャな治療を受ける「犬の目」。次に桂春團治氏が、底抜けにスカタンな男の履歴書を何とかまとめようとする「代書屋」を演じました。そして、桂春雨氏は女の子にモテるために芸を身につけようとして「稽古屋」に駆け込み男の様子を踊りや歌を交えて演じました。トリは桂春之輔氏の「死ぬなら今」で、おもしろくないからと前置きしながら最後に絶妙のタイミングでオチを披露して観客の笑いを誘いました。

### 基本がわかる落語教室

中入り後、桂春之輔氏の進行で落語教室が行われました。

登場人物が2人、3人、4人……となった時に、どのように演じるのかを実践したり、扇子や手ぬぐいを、筆や紙、さらにはよかんや焼き芋にまで変身させました。

また、芸人が高座へ上がる時に演奏される出囃子に使う三味線や太鼓、締太鼓、当り鉦、拍子木、ドラ、笛などの楽器を紹介しました。出囃子は落語に集中してもらうため、観客には見えないところで演奏されますが、特別に姿を見せ、それぞれの楽器の音色を披露しました。

また、開場を表す「一番太鼓」は「どーん、どーん、どーんと来い」、開演2、3分前の「二番太鼓」は「おたふく来い来い」という音を表す拍子で叩いていると解説するなど、落語のママ知識を伝授していただきました。

- ◆プログラム(敬称略)
- あいさつ 積徹宗 人文部教授
- 相愛寄席 「犬の目」桂春之輔 「代書屋」桂春團治 「稽古屋」桂春雨
- 中入り
- 落語教室 桂春之輔 中田まなみ 笑福亭生寿 笑福亭松五 「死ぬなら今」桂春之輔





親鸞聖人750回大遠忌法要の青年を対象とした法要行事が、8月6、7日に行われました。6日は龍谷総合学園加盟の高校を中心とした「合同文化祭」と「2011全国真宗青年の集い」が京都の平安高等学校、本山でそれぞれ行われ、7日には御影堂にて参加者全員で大遠忌法要に参拝しました。

相愛学園からは高校生31名が1泊2日で両日に参加。1日目の合同文化祭では各加盟校の高校生、教職員ら1000名が集まり、ダンスや和太鼓、コーラスなど華麗なステージが披露され、その質の高さに皆熱心に見入っていました。また相愛大学のオーケストラが大学生として唯一参加。「交響讃歌・親鸞」を演奏し、その圧倒的な音響に会場も魅了されていたようです。広島音楽高校による創作ミュージカル「しんらんさま」は出演から演出まで全て生徒の手によって行われました。完成度の高さに終了後は会場から盛大な拍手がわき起こり、相愛の生徒達も感動した様子で感想を述べ合っていました。



「世のなか安穏なれ」  
親鸞聖人750回大遠忌法要

7日は本山で青少年国際研修団参加者なども加わり3500名が一堂に会して法要を営むという貴重な経験をしました。相愛高校の生徒を含む各加盟校の代表生徒150人による讃歌衆が結成され、美しい歌声でおつとめを先導してくれました。法要の後はご門主さまが東日本大震災に触れられながら、つらい現実を理屈としては理解できても簡単には受け入れられないという人間の本质などについてお話をされました。

2日間を通して、同じ建学の精神の下に学ぶ生徒達との交流や法要を体験し、相愛に学ぶ私達にとっても親鸞聖人のみ教えや、今回のスローガンである「世のなか安穏なれ」という言葉について改めて考えるよい機会となりました。



コンクール入賞者

【大学音楽学部】

- 第5回全日本芸術コンクール 関西本選
  - 第1位 比奈本 茜 (大2 Vn)
  - 第2位 幸野 久司 (大3 Vc)
  - 第3位 柏山 七海 (大2 Vn)
  - 相浦 薫 (大2 Vc)
- 第12回大阪国際音楽コンクール 弦楽器部門Age-U アブニール賞
  - 宇田 奈津美 (大1 G)
- アンサンブル部門 エスポール賞
  - 白石 尚美 (大3 A.Sax)
  - 辻本 純佳 (大2 S.Sax)
  - 松葉 彩 (大1 T.Sax)
  - 板倉 峻 (大1 B.Sax)
- 弦楽器部門Age-U 入選
  - 比奈本 茜 (大2 Vn)
  - 福岡 里美 (大2 Vn)
  - 高原 里紗 (大1 Vn)
- デュオ部門 入選
  - 山下 悠介 (大3 Vn)
- 第5回神戸新人音楽賞コンクール 優秀賞
  - 比奈本 茜 (大2 Vn)
  - 中塚 菜月 (大1 Vn)
- 第26回摂津音楽祭リトルカメラコンクール 銅賞
  - 坂 茉莉江 (大4 Vn)

【高校 音楽科】

- クロスターシェンター国際ヴァイオリンコンクール(ドイツ) 第1位及びバツハ賞
  - 中村 友希乃 (1年)
- 第18回ヨハネス・ブラームス国際コンクール(オーストリア) ヴァイオリン部門 セミファイナリスト(最年少)
  - 登坂 理利子 (1年 Vn)
- 第65回全日本学生音楽コンクール全国大会 ヴァイオリン部門 高校の部
  - 第2位・横浜市民賞 西川 鞠子 (2年)
- 第16回高槻音楽コンクール高校生部門 最優秀賞・高槻市教育委員会賞
  - 津田 七愛 (2年 Vn)
- 第14回「長江杯」国際音楽コンクール ヴァイオリン部門 高校の部 第1位
  - 比奈本 香 (3年)
- 第30回記念アゼリア推薦新人演奏会 最優秀賞
  - 登坂 理利子 (1年 Vn)
- 第13回関西弦楽コンクール 優秀賞
  - 比奈本 香 (3年 Vn)
- 審査員賞
  - 西川 鞠子 (2年 Vn)
- 第11回ノーヴィイ国際音楽コンクール ピアノ高校生部門 銀賞
  - 鹿島 久美子 (2年)
- 第12回大阪国際音楽コンクール Age-H木管楽器部門 第3位
  - 小栗 佑奈 (3年 Sax)
- ファイナル出場
  - 森 智香 (2年 Fl)
  - 竹西 朋子 (1年 Vn)
- 第13回日本演奏家コンクール 本選 特別賞
  - 芝内 あかね (1年 Vc)
- 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール 審査員特別賞
  - 井口 華奈 (1年 Vn)
- 日本クラシック音楽コンクール 地区本選会 優秀賞 (全国大会出場)
  - 比奈本 香 (3年 Vn)
  - 鹿島 久美子 (2年 Pf)
  - 森 智香 (2年 Fl)
  - 佐々木 英里奈 (1年 Pf)

- ジュニアエレクトーンフェスティバル(JEF)2011 和歌山地区大会
  - 金賞 大阪ファイナル出場 佐々木 穂奈 (2年)
- ヤマハエレクトーンコンクール(YEC)2011 B部門 奨励賞 (インターナショナル大会準決勝への候補に選出)
  - 佐々木 穂奈 (2年)
- YAMAHA ELECTONE STAGE 三木楽器予選大会 努力賞
  - 園田 穂月 (2年 Pf)
- ELECTONE FESTIVAL 2011 洛西フェスティバル 奨励賞
  - 堤 晴香
- 第2回日本バツハコンクール 全国本選大会出場
  - 佐々木 英里奈 (1年 Pf)

【中学校 音楽進学コース】

- 第65回全日本学生音楽コンクール大阪大会本選出場 ヴァイオリン部門 中学校の部
  - 芝内 もゆる (2年)
- 第14回「長江杯」国際音楽コンクール ピアノ部門 中学校の部 第2位
  - 原田 友梨佳 (1年)
- 第2回ヨーロッパ国際ピアノコンクールin Japan 大阪地区本選 自由曲コース
  - 中学生部門 優秀賞 細田 知佳 (3年)

【音楽教室】

- 第23回子供のためのヴァイオリンコンクール 第3部門A
  - 銀賞 大原 優奈(小3)
- 第35回ピティナ・ピアノコンペティション B級地区本選
  - 優秀賞 生駒 玲佳(小4)
  - 奨励賞 窪田 隼人(小3)
  - 入選 岩崎 麻衣(小4)
- C級地区本選
  - 優秀賞 鈴木 麻央(小5)
- D級地区本選
  - 優秀賞 佐藤 希捺(小6)
- 第13回関西弦楽コンクール 優秀賞・審査員特別賞
  - 内尾 文香(中3)
- 優秀賞・審査員賞
  - 徳田 佑馬(小5)、芝内 もゆる(中2)
- 優秀賞
  - 富永 彩花(小5)、廣田 真理衣(中2)、長谷部 りさ(高1)
- 優良賞
  - 杉森 慧(小2)、窪田 隼人、桑原 七音(小3)、生駒 玲佳(小4)、三差 桃音(小5)
- 第5回全日本芸術コンクール 関西本選ヴァイオリンA部門
  - 第1位 水江 遼(小2)
- 関西本選ヴァイオリンE部門
  - 第3位 月崎 アミ(中3)
- 第5回横浜国際音楽コンクール ピアノ部門〈小学低学年の部〉
  - 第3位 中村 直路(小2)
- 第16回KOBE国際音楽コンクール 〈中高生の部〉弦楽器部門
  - 奨励賞 勝森 菜々(中2)
- 岐阜国際音楽祭 弦楽器部門〈中学生の部〉
  - 第1位 宮下 絢子(中3)
- 第17回熊橋の里音楽コンクール ヴァイオリン部門Dクラス
  - 第1位 足立 桃子(中2)
- 高槻音楽コンクール 中学生部門
  - 優秀賞 足立 桃子(中2)
- 第21回グレンツェンピアノコンクール 刈谷地区予選小学3・4年Bコース
  - 金賞 生駒 玲佳(小4)
- 第21回日本クラシック音楽コンクール ヴァイオリン部門地区本選
  - 優秀賞 木村 広(小3)
- 第12回大阪国際音楽コンクール 弦楽器部門 Age-J
  - 第2位 内尾 文香(中3)
  - 入選 廣田 真理衣(中2)
  - 金賞 桑原 七音(小3)
- インファントコース地区本選
  - 奨励賞 脇田 千鶴(中3)
- 第1回スタインウェイコンクール 地区審査会カテゴリD
  - 奨励賞 脇田 千鶴(中3)
- 毎日こどもピアノコンクール 中学生部門
  - 最優秀賞 矢田 桃果(中2)
- 第65回全日本学生音楽コンクール大阪大会 バイオリン部門〈小学校の部〉
  - 入選 岩谷 弦(小5)
  - 入選 富永 彩花(小5)
- バイオリン部門〈中学校の部〉
  - 第1位 内尾 文香(中3)
  - 入選 芝内 もゆる(中2)

23年度 コンサート報告

- 【高校 音楽科】
  - 第14回「長江杯」国際音楽コンクール入賞者披露演奏会
    - 12/4 ライティホール
    - 比奈本 香(3年 Vn)
  - マグノリア サロンコンサート
    - 5/15 逸翁美術館
    - 世界に羽ばたく若き音楽家たち
    - 10/10 京都府立府民ホール
    - Vicenza国際フェスティバル(イタリア)
    - 7/23 テアトロ・オリンピコ
    - 西川 鞠子(2年 Vn)
  - モーツァルト・インターナショナル サマーアカデミー コンサート(オーストリア)
  - アゼリア推薦新人演奏会
    - 5/2 池田市民文化会館
  - ジョイントリサイタル(摂津市主催)
    - 10/29 摂津市コミュニティプラザコンベンションホール
    - 登坂 理利子(1年 Vn)
  - 第11回ノーヴィイ国際音楽コンクール・受賞者披露演奏会
    - 9/23 砂川四郎記念ホール 鹿島 久美子(2年 Pf)
- 【中学校】
  - 第14回「長江杯」国際音楽コンクール入賞者披露演奏会
    - 12/4 ライティホール 原田 友梨佳(1年 Pf)



快挙!

# 全日本テニス女子複優勝!

人文学部4回生  
高畑寿弥さん



相愛大学硬式テニス部に所属し、日本代表にも選出された高畑寿弥さん(人文学部社会デザイン学科4回生)が、11月5～13日に開催された全日本テニス選手権大会にて女子ダブルス優勝、MIXダブルス準優勝という快挙を達成しました。今回の活躍に対するコメントを求めると、高畑さんは「2回生になった頃から、プロ転向を視野に入れて活動するようになり、猛練習の日々を送ってきました。



しかし2010年の12月、左腕に怪我を負いユニバーシアード日本代表の選考を間近に控えた5カ月間、試合に出られない日々が続きました。この間、不安と重圧に押しつぶされそうになりましたが、なんとか代表メンバーに選んでいただき、2011年8月に中国深圳で開催されたユニバーシアード女子ダブルスで優勝できました。この経験によって、さらに精神的強さを身につけることができ、全日本選手権では、優勝をねらって取るといふ強い気持ちで臨むことができました」と明るく笑顔で語ってくれました。

速報!

## 相愛高校音楽科 2年連続上位入賞

12月5日に横浜市で行われた「第65回全日本学生音楽コンクール」バイオリン部門 高校生の部で、大阪大会代表の西川鞠子さんが各地区代表11名の中で演奏し、第2位に選ばれ、同時に、「もっとも感動した演奏」、「今後も応援したい演奏」として聴衆から選ばれる「横浜市民賞」も受賞しました。

曲目は、サン＝サーンス(イザイ編)  
ワルツ・カプリース 作品52-6  
ピアノ伴奏は田口友子先生

昨年は松岡井菜さん(現3年)が1位、また、東京芸術大学に進学した杉谷悠さん(2011年3月卒業)が横浜市民賞を受けています。



写真提供 毎日新聞社

全日本学生音楽コンクール全国大会  
西川さん 第2位!  
横浜市民賞も受賞!

高校音楽科2年  
西川鞠子さん

### ◆ 本学教員の近刊図書

|   |  |  |   |   |
|---|--|--|---|---|
| <p>『宗教心理学概論』<br/>金児曉嗣 監修<br/>松島公望・河野由美<br/>杉山幸子・西脇良 編</p> <p>日本人の宗教的行動や宗教性の発達など、実証研究の理論や方法を平易かつ詳細に解説。</p> <p>●248頁。ナカニシヤ出版(2011年11月1日発行)。定価3400円(税別)。</p> | <p>『いきなりはじめる 仏教生活』<br/>釈教宗 著</p> <p>日常生活を再点検し、苦を生み出す原因を知る。「世間」や「私」といった枠組みを相対化する仏教の知見を提示。</p> <p>●383頁。新潮社(2011年4月1日発行)。定価590円(税別)。</p> | <p>『キッパリ生きる! 仏教生活』<br/>釈教宗 著</p> <p>瞑想する、念仏をと念える、深く呼吸する、お布施する、巡礼する…仏教の「身心を調える技法」を紹介。</p> <p>●264頁。技術評論社(2011年7月25日発行)。定価1580円(税別)。</p>           | <p>『法然親鸞一遍』<br/>釈教宗 著</p> <p>仏教のバクトルに大転換をもたらした日本浄土仏教は、いかにして生まれたのか。法然・親鸞・一遍がわかる究極の1冊。</p> <p>●189頁。潮社(2011年10月20日発行)。定価680円(税別)。</p>                 | <p>『ケアリング研究への いざない』<br/>釈教宗・吉原恵子・広岡義之ほか 編著</p> <p>対人援助における、ケアする者とケアされる者の関係を理論と豊富な現場の事例から読み解く研究書。</p> <p>●256頁。風間書房(2011年3月31日発行)。定価2800円(税別)。</p> |
| <p>『覚悟の決め方 一僧侶が伝える15の智慧』<br/>釈教宗ほか 著</p> <p>覚悟を持った、勇気ある僧侶たちの「3.11後」の言説集。5人の僧侶が仏道の見地からわかりやすく提示。</p> <p>●247頁。扶桑社(2011年6月30日発行)。定価1500円(税別)。</p>            | <p>『自然を生きる』<br/>釈教宗・玄侑宗久 著</p> <p>現代社会とアクチュアルに関わる僧侶が、仏教・道教・儒教などの視点を通り交ぜ、縦横無尽に語り尽くす。</p> <p>●215頁。東京書籍(2011年8月4日発行)。定価1500円(税別)。</p>    | <p>『池上彰の宗教がわかれば 世界が見える』<br/>池上彰 著・釈教宗ほか 談</p> <p>人はなぜ宗教を求めるのか。日本人は「無宗教」なのか。著者が7人の賢者とともに読み解く。</p> <p>●272頁。文藝春秋(2011年7月20日発行)。定価800円(税別)。</p>     | <p>『現代人の祈り 一呪いと祝い』<br/>釈教宗・内田樹・名越康文 著</p> <p>注目の3人が、宗教性の多様な側面を通して、「私」と「他者」を語り尽くす。現代人の苦悩を理解するヒント。新書版。</p> <p>●299頁。サンガ(2011年10月1日発行)。定価850円(税別)。</p> | <p>『私と親鸞聖人』<br/>釈教宗ほか 著</p> <p>今をどう生きるか。各界で活躍する著名人8人が、それぞれの立場や生き方を通して、親鸞聖人への想いを語る。</p> <p>●124頁。本願寺出版社(2011年4月10日発行)。定価700円(税別)。</p>              |
| <p>『現代人の祈り 一呪いと祝い』<br/>釈教宗・内田樹・名越康文 著</p> <p>注目の3人が、宗教性の多様な側面を通して、「私」と「他者」を語り尽くす。現代人の苦悩を理解するヒント。新書版。</p> <p>●299頁。サンガ(2011年10月1日発行)。定価850円(税別)。</p>       | <p>『仏教入門 親鸞の「迷い」』<br/>釈教宗・梅原猛 著</p> <p>巨額の宗教者・釈教宗と知の巨人・梅原猛による白熱の論考。親鸞を深く知る1冊。</p> <p>●126頁。新潮社(2011年9月25日発行)。定価1600円(税別)。</p>          | <p>『仏教シネマ 一お坊さんが読み読む 映画の中の生老病死』<br/>釈教宗・秋田光彦 著</p> <p>映画を観れば死生観がわかる。二人のお坊さんが、映画を手がかりに、人間の生老病死を語り尽くす。</p> <p>●254頁。サンガ(2011年11月1日発行)。定価1500円。</p> | <p>『私と親鸞聖人』<br/>釈教宗ほか 著</p> <p>今をどう生きるか。各界で活躍する著名人8人が、それぞれの立場や生き方を通して、親鸞聖人への想いを語る。</p> <p>●124頁。本願寺出版社(2011年4月10日発行)。定価700円(税別)。</p>                | <p>『仏教シネマ 一お坊さんが読み読む 映画の中の生老病死』<br/>釈教宗・秋田光彦 著</p> <p>映画を観れば死生観がわかる。二人のお坊さんが、映画を手がかりに、人間の生老病死を語り尽くす。</p> <p>●254頁。サンガ(2011年11月1日発行)。定価1500円。</p>  |

## 平成22年度事業報告

### 事業の概要

平成22年度の事業報告を以下の通りとりまとめた。

#### 1. 平成22年度の特別予算措置は以下の通りである。

- 重点事項予算
- ①学園広報に関する特別予算
  - ②大学個別・共同研究に関する特別予算
  - ③高等学校・中学校の特色化に関する特別予算
  - ④アソカ幼稚園提携関係に関する特別予算
  - ⑤相愛大学オーケストラ中国特別公演特別予算
  - ⑥中国国際交流記念広告特別予算
  - ⑦学生募集強化プロジェクト特別予算
  - ⑧大学新学申請準備特別予算
- 平成23年度スタート広報・申請・設置経費—

### II. 教育計画報告

#### 1. 大学

##### (1) 音楽学部

音楽学部では平成22年度の事業として、学内、学外における各種のコンサートや、オーディションの開催、外部招聘による公開レッスンならびに公開講座、国際交流としてのヨーロッパ研修、夏期・冬期受験講習会、さらには学生確保のため平成23年度開設予定の新学科「音楽マネジメント学科」を含めた音楽学部独自の入試広報活動、そして地域貢献活動などを行った。

##### ①コンサート関連

学内コンサートとして、各専攻生による「学内演奏会」、各種の「アンサンブル演奏会」、「ウィンドオーケストラ・ポップコンサート」、作曲専攻生による「作曲作品発表会」、声楽専攻生の「オペラ試演会」、「卒業演奏会—第1日」、「教員によるSOAIConcert」等の数々のコンサートが本学南港ホールにおいて行われた。学外でのコンサートでは「第32回相愛ウィンドオーケストラ定期演奏会」、「第54回、55回相愛オーケストラ定期演奏会」、「相愛オーケストラ和歌山公演」、「専攻科修了演奏会」、「卒業演奏会—第2日」等数多くのコンサートが予定通り開催されたが、いずれも成功裏に終えることが出来た。

##### ②公開レッスン、公開講座

外部招聘による公開レッスンならびに公開講座に関しては、「シルデ客員教授(ピアノ)による公開講座」、「マンガ客員教授(声楽)による公開レッスン」、さらには恒例の「公開講座ヴィオラ・スペース2010」等が開催されたが、学部学生に対する教育効果を充分に示すものであった。

##### ③国際交流事業

国際交流事業としての学生のヨーロッパ研修は例年通り、国際交流提携校であるポーランド・ワルシャワのシヨハン音楽大学、そして、イタリアのノヴァラ音楽院での夏期講習会が実施された。今後も国際交流事業の発展と充実を図りたい。

##### ④音楽学部入試広報事業

平成23年度より既設の「音楽学科」に加え新学科「音楽マネジメント学科」が開設され2学科体制となるが、新学科のみならず「音楽学科」と共に定員の確保を目指して音楽学部独自の入試広報活動を試みた。音楽学部同窓会「沙羅の木会」との共催で「音楽学部入試説明会—沙羅の木会拠点説明会—」を近畿圏の各支部4ヶ所で開催したが、沙羅の木会会員の多大な協力を得て相応の成果を収めることが出来た。今後も「沙羅の木会」との交流・連携を深めたいと思う。また、「音楽マネジメント学科」の入試広報活動は吉本興業協賛の「ソーアイ・カンタービレ」開催を主軸とした種々の広報を行った。今後はよりきめの細かい広報活動を展開し、学生確保に向けての成果を挙げなければならない。

##### ⑤地域貢献事業

昨年度の大府府立急性期・総合医療センターとの相互連携に関する協定に基づき、音楽学部は「急性期・総合医療センター」が行う患者向け音楽コンサートへ学部学生あるいは卒業生の派遣を実施している。地域社会の形成・発展に貢献する活動への参加は極めて意義深いことであり、今後の継続的な進展が期待できる。

#### (2) 人文学部

人文学部では人間心理学、社会デザイン学科の募集を停止し、既存の日本文化学科に新設の仏教文化学科と文化交流学科を加えた3学科体制で、「文化」を軸に据えた教育を推進すべく、学生募集活動を展開した。仏教文化学科では、仏教の精神を基盤とした知見によって現代社会へ新たな提言ができる人材、成熟した人間力を持つ人材を育成することを目的に、文化交流学科では、「交流」と「共生」

を基本概念に据え、グローバル化社会であると同時に多文化共生社会に向かう現代社会に貢献できる人材の育成を目的に、それぞれ設置された。いずれも、これからの社会に不可欠な学びを提供する学科である。また、日本文化学科では歴史文化コース、日本語・日本文化コースに加えて、大阪文化、サブカルチャーの2コースを増設し、よりヴィヴィッドに日本文化が理解できる仕組みに整えた。しかし、昨今の社会状況は実学志向が顕著であり、受験生も資格に直結する学部・学科を選択する傾向が強い。そのため、本学では、両学科の特色と教育目的を広く社会に伝えるため、さまざまなメディアを活用するとともに、著名な人文系の講師を招いて「人文科学の挑戦」と題するシンポジウムを2度開催(9月25日、3月5日)し、教育現場への広報にも努めた。具体的な取組みが6月以降となったため、とりわけ新2学科の教育目的を社会や教育現場に充分認知してもらえるには至らなかったが、いわば社会のニーズを先取りした人文学部の新たな体制は着実に歩みを進めた。

2008年度から開始した留学生の受け入れ事業は、今年度も順調に推移した。領土問題に端を発した日中関係の冷却化、東日本大震災及び原発事故などにより、留学生の受け入れ環境が大きく動揺したが、関係者の尽力によりほぼ昨年度並みの新入留学生を確保できたことは大きな成果であった。本学において、教育のグローバル化を推進する立場にある人文学部は、留学生派遣の実現という次なる課題に積極的に取り組んでいく。

#### (3) 人間発達学部

人間発達学部の教育研究上の目的は、「多様な社会的支援能力をもつ人材育成」であり、この使命を果たすため、平成22年度も専門的知識に基づく対人支援能力を学生に育成することをめざした教育内容・方法の研究開発や実践を推進した。

両学科とも、学生のキャリア形成支援を強化するため、平成23年度よりカリキュラム改定の準備を行った。両学科で養成する資格・免許取得に直結する専門教育科目や内容の充実を図り、4年間の学びをより系統的に構成した。さらに、それぞれの学科の専門性や独自性を活かした取り組みを展開した。両学科の取り組みは、学生の就業力アップを目的としていくとともに、社会貢献につながるような活動のプロデュースを心がけた。地域に開かれた大学づくりと並行し、「社会で活躍できる人材育成をめざした具体的な取り組みについては、以下の通りである。

##### ①子ども発達学科

学生の就業力育成をめざし、子どもの発達援助に必要な力を実践的に養成するプログラムの企画及び運営を事業活動の中心として、以下のような取り組みを行った。

a. 大学における子育て文化継承支援：子ども・保護者の発達支援と同時に、学生の就業力支援も目的とした「よつ葉のクローバー」プログラムを展開し、その中で学生たちは遊びを中心として交流する活動お母さん方と子育てを話題に交流する活動を通して体験的学習を積んだ。

b. 専門職育成のためのスキルアップ支援(リカレント教育と入学前教育も含)：保育・教育現場で求められるスキルを、実践力および応用力の育成も含めてプロから学ぶことを目的に「おもしろスキルアップ講座」等を開催した。これは、現場で働く卒業生や地域の保育・教職従事者も対象とし、リカレントの教育の展開とタイアップさせた。さらに、入学前からのスキルアップへの取り組みとして、入学予定者を対象に「ピアノ入門一日講座」も実施した。

c. 保育・教育現場への就業に直結した学習支援：保育現場への「就職支援シンポジウム」の開催や「教育実習(幼稚園)アドバイスブック」の発行など、先輩が自分自身の学習や就業のための活動の振り返りによって得た成果を後輩に伝える実践を通して、両者の学びをより深めていく取り組みを実施した。

d. 学生の出席実践活動：社会貢献と保育・教育に関する実践力、コミュニケーション力の育成をめざし、学生が地域の保育施設を訪問して演奏活動や保育活動を実施する活動を展開した。とりわけ「リンリンロック(ハンドベル演奏隊)」の活動は学生部長賞を得て卒業式で表彰された。

##### ②発達栄養学科

平成22年度も管理栄養士の養成を主たる目的とし、継続して管理栄養士教育の高度化を図るとともに、管理栄養士の国家試験受験対策に力を入れた。

a. 1、2回生に対しては、「管理栄養士の資質を基礎づける基本的知識、スキルの向上を目的として、基礎教育の強化と充実を図るため、学生のレベルに応じた講義、

実験実習に努めた。3回生以上には、学外実習が始まることから、学外実習が単に実習の場としてだけでなく、就業力の向上の場にもなるように、臨地実習の事前指導に尽力した。

b. 国家試験対策については様々な取り組みを実施し、学生のモチベーションの向上と持続、合格率の向上に努めた。具体的には、専任教員による少人数グループ別国家試験対策講座、専門分野の解説、外部講師による集中講義、国家試験対策室の整備、管理栄養士国家試験に合格した本学の卒業生による受験対策相談、学内外の模擬試験への参加、保護者に対する国家試験受験に対する理解とサポートの依頼と面談、などであった。

c. 食・健康に対する好奇心や探究心、人とのコミュニケーション能力と実践力を育成し、就業力の向上を図るため、平成22年度においても地域と外食・流通産業、食品産業等と連携・協働して次ような事業を引き続き実施し、学生を食育ボランティアとして積極的に参加させた。具体的には、産学官(大阪府、カゴメ)の連携・協働による「食育推進キャンペーン」「カゴメ子どもクッキング」、大阪府急性期・総合医療センターとの連携による「糖尿病予防セミナー」「糖尿病予防教室」、大学・地域連携事業である「健康フェスタ」、「大阪ヘルスジャンボリー2010」「スーパーマーケット食育推進キャンペーン」、「住之江区みんなの健康展」などであった。

#### (4) 共通教育センター

平成22年度、共通教育センターは、以下のような計画に基づいて活動してきた。

①共通科目を中心として、教職課程、司書課程などの授業の運営を行う。

②それぞれの教員が部門別の担当にあたり、非常勤講師との連絡調整を継続的に進める。年度末に翌年度に向けての懇談会を開催する。

③情報交換や研修に努め、カリキュラムや授業の改善を図る。

④FD委員会と連携してFD研修会を実施する。

⑤教職課程履修カルテ電子化開発を行う。

⑥⑦について、やや詳しく報告する。

⑥については、例年通り、3月の半ば、3月11日・12日の両日、非常勤講師との懇談会を開催した。採り上げられた問題や改善点・改善方策について、周知を図る。また、共通教育を担当する非常勤講師にとって、授業等に関する要望・質問を行うのが困難な場合があるので、そのための用紙とメールボックスを授業課と共通教育センターに設置した。

⑦については、2月16日、研修会を実施した。講師は、京都光華女子大学副学長の山本嘉一郎氏。演題は「授業を通して学生の社会人基礎力をどう育成するか」である。非常勤講師を含め多数の参加者があった。

⑧の「教職課程履修カルテ」は、当初、電子化を計画していたが、当面は紙ベースで行うこととした。本学の規模・使い勝手・費用等を勘案しての計画修正である。

なお、当初の計画には含まれていなかったが、共通教育センターでの検討を踏まえ、学内の大方の賛同を得て、新規事業の準備に着手した。平成23年4月に開設された「学修支援室」である。これは学生の基礎学力の向上と就業力の向上を図り、学生のスケジュールに合わせて個別指導を行うものである。年度末までに、支出可能な新聞雑誌等のほぼ全額で最も基礎的な参考書・問題集を購入し、図書館の協力を得て図書館2階の1室を使用して開設する準備を完了した。さらに共通教育センター所属教員の協力によって、月曜日から金曜日、原則的に15時から18時まで、教員を配置する体制を整えることができた。

ただし、規定など未整備のまま発足していること、書籍・機器など、まったく不十分であること、共通教育センター所属教員だけでは十分な支援体制が望めないこと等も事実であり、平成23年度以降の課題である。

#### (5) 研究

平成22年度は、相愛大学将来構想委員会研究部会(以下、将来構想委員会)が設置され、委員長(学長)より示された検討課題を中心に審議し、結果は全学執行部会議、全学評議会、各学部教授会において了承された。また、その具体化のために、10月には相愛大学研究推進本部(以下、研究推進本部)が設置され、そのもとに相愛大学研究助成運営委員会(以下、研究助成委員会)も設置された。全学の研究推進に関する具体的な活動の詳細は以下のとおりである。

①相愛大学倫理綱領、相愛大学研究者等行動規範、相愛大学研究不正行為防止委員会規程、相愛大学「人を対象とする研究」倫理規程、相愛大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会規程、「人を対象とする研究」に

関する倫理審査・関係様式等の審議・策定：これらはポータルサイト・アーカイブに採録され、大学内外に本学の研究倫理指針を示すと共に、論文投稿の際に求められる倫理審査の学内審査が可能となった。

②本学の特徴を示す研究創成のための実態調査：教員の研究実態調査を実施し、回収率は83%であった。結果は、研究推進の基礎データとして「研究推進本部」に引き継がれる。

③研究に関わる全学将来構想のまとめ：将来構想委員会からは、具体的に全学将来構想をまとめ、提言した。

④研究推進本部は、ア.研究戦略の策定と実施、イ.戦略的学術文化研究活動の助成、ウ.その他本学の研究に関する事項を審議・実施する。

また、特色ある研究を創生できる学際的研究プロジェクトの形成についてコーディネーターとしての役割を担う。

②相愛大学研究助成運営委員会は、重点研究A、B、特別演奏会、研究成果刊行等に対する助成制度を活用し研究活動の活性化を図る。そのため平成22年度には、「相愛大学研究助成規程」が新しく制定された。

その他、③研究体制における開放性の推進、エ.国際交流の推進、オ.外部資金獲得戦略の推進、カ.各研究所における研究推進機能の見直し等について、本年度は、それぞれの学部等の研究組織および教員個人において推進の努力がなされたが、さらに平成23年度に向けて、「研究推進本部」に引き継がれることとなった。

## (6) 国際交流

教育の国際化を推し進める文科省の方針に基づき、平成22年度は海外の教育機関及び海外の大学との提携関係を強化し、以下のように事業を展開した。

### ①組織の改革

本学の国際交流事業を順調に推し進めるために、国際交流室を国際交流部に切り替え留学生センターの名称を留学生プラザに変更した。

### ②大型イベントの実施

8月29日～9月1日、中国の瀋陽で開催する東アジア経済協力フォーラム組織委員会の依頼により、120名の演奏者からなる本学のオーケストラがその開幕式で演奏をし、また提携大学との親交を深めるために、遼寧大学・東北大学においても演奏会を行い、大きな反響を呼び、好評を得た。

### ③提携大学の増加

9月上旬、本学の代表団が中国長春光華学院大学を訪問し提携の調印式を行った。

### ④学生の海外研修

夏期休暇期間を利用し、学生(一部卒業生も含む)が外国の高等教育機関で学ぶ講習を実施している。今年度は次の講習が実施された。

8月5日～8月23日 ショパン音楽大学夏期講習の実施  
8月1日～8月13日 イタリア夏期講習の実施  
なお、英語語学研修、中国研修は実施されなかった。

### ⑤留学生の派遣及び受け入れ

人文学部では、中国における提携校から、編入留学生50名と派遣留学生35名を受け入れた。これらの留学生の生活支援のために、留学生プラザや合研を中心に、良質な住居の斡旋、授業の相談、進学・就職などの進路相談など積極的にを行っている。

### ⑥教員の交流

音楽学部では、毎年、国外の提携校から教授を招聘し、実技レッスンを実施している。従来は、ショパン音楽大学からピアノとヴァイオリンの教授を交代で招聘していたが、今年度はノヴァラ・グイド・カンテリ音楽院から声楽のシルヴァーナ・マンガ教授を招聘し、より活発な交流をした。  
5月24日～5月29日 シルヴァーナ・マンガ教授公開レッスン

11月24日～12月10日 クラス・シルデア客員教授公開レッスン

人文学部では、協定締結大学の長春師範大学外語学院と浙江工業大学外国語学院から各1名の研究員を半年間受け入れた。また、9月8日～10日に中国東北大学、日本文学社会科学学会と連携して、国際学術会議「第2回中日文化比較研究国際学術シンポジウム」を共催した。そして、昨年9月に行われた「第1回中日文化比較研究国際学術シンポジウム」の成果として、東北大学出版社から『中日文化比較研究論集(第一輯)』が刊行された。

なお、協定校の東北研科大学が4月に、浙江工業大学が12月に本学に来訪した。

## (7) 社会貢献

存立基盤である地域社会との協力関係の再構築や地方公

共同体、産業界等との連携、そして大学間連携などを含めた新たな大学づくりを推進し、地域貢献の推進に取り組んだ。各学部・学科において、公開講座事業等を企画、実施し、これら地域連携事業の情報を、広報やホームページ等各種媒体を活用して積極的に発信した。全学の地域連携、社会貢献に関する具体的な活動の詳細は以下の通りである。

### ①中学・高校等との連携

中学・高校との連携を積極的に推進し、中学生高校生と直に接触する機会を増やしていった。平成22年度、音楽学部は「大阪中学生サマー・セミナー」推進協議会・大学コンソーシアム大阪の開催するセミナーに、大阪府下の中学生を対象に科目を開設した。人間発達学部はオープンセミナーを開催し、人間発達学部の科目等履修生として相愛高校、咲洲高校の高校生を受け入れた。またアソカ幼稚園と提携し、幼児対象英語学習やコンサート等に教員及び学生を派遣した。

### ②一般市民、地域社会及び産業界等を対象とした活動

地方公共団体等との連携を一層強化し、地域社会のニーズに応じた地域連携事業を展開した。平成22年度は、大阪市、豊中市教育委員会及び農林水産省近畿農政局大阪事務所と連携協定を結び、各種事業を積極的に展開した。地元である大阪市生涯学習担当部局等と共同で公開講座を実施する等、エクステンションプログラムの積極的な展開を図った。また、大阪府立急性期・総合医療センターのコンサートへ音楽学部学生を派遣し、小児病棟に人間発達学部子ども発達学科学学生を派遣した。人間発達学部発達栄養学科は糖尿病教室を大阪府立急性期・総合医療センターと共催し、人文学部教員は緩和ケアに関するシンポジウムを共催した。

音楽学部では、年間に50を超える演奏会や公開レッスン・公開講座を主催開催した。また、人文学部は、シンポジウム「人文科学の挑戦」等を企画開催するなど、芸術・文化の振興を図り、専門的な研究成果を市民に還元し、相愛大学の学術文化が根づいたまちづくりをめざした。産学官連携については、人間発達学部がエクステンション小委員会を中心に取り組む体制を整え、積極的に取り組んだ。発達栄養学科は「お弁当コンテスト」、「食育推進キャンペーン」、「糖尿病予防セミナー」等の事業への企画協力・実施など学生参加型の積極的な産学官連携事業の展開を図った。

### ③ボランティア活動の推進

学内外における社会体験・地域活動を視野に入れた取り組みが社会的にも注目され、地域等において大学生のもつ潜在的な力に対する期待感は日増しに高まり、学生のボランティアに対する社会のニーズは増加している。本学も、建学の精神「敬相敬愛」を活かした積極的な学生ボランティア活動を推進した。

全学共通の取り組みとして、本学では地域の小・中学校と連携し、総合的学習の時間などへの協力や学生が行う学校支援ボランティアなどを奨励、支援している。

平成22年度は大阪市、神戸市、伊丹市、宇陀市教育委員会と連携し、約50名を派遣した。また、住之江区南港地区の清掃にも「ピカピカ大作戦」とし参加した。さらに社会福祉法人いわき学園(大阪市立敦津浦学園 住之江木の実園)及び社会福祉法人福祉協会等への、音楽療法専攻生によるボランティア活動も積極的に行った。今後も、このような地域に密着したボランティア活動を継続して行っていく。

### ④大学の施設開放

平成22年10月からは大学の施設開放の一環として、図書館で一般公開制度を設け、登録者には閲覧および貸出サービスを提供している。また、卒業生に対する支援として、在学中とほぼ同じ条件で、図書館の利用を認めている。

## (8) 自己点検・評価

本年度の自己点検に関する実施事業は、主として機関別自己点検・評価と教育改善にかかる自己点検・評価に大別できる。

機関別自己点検・評価に関しては、自己点検評価書「審流」第4号(全91頁)を刊行した。本書作成に当たっては、大学基準協会による2008年度の評価に対応すべく、各部署において行った改善作業を反映させ、また一定の改善方向を提示したが、なお全面的には大学基準協会の評価に耐える条件を充足していないとせざるを得ない。一方で、4月からの新執行部により、2011年6月の改善報告書提出にむけて、精力的に準備が進められた。特に年度末に策定された「相愛大学将来構想」は、教育、研究、国際交流、社会貢献、管理運営、財政・施設整備、自己点検・評価の各項目について、本学の新たな将来像を提示したものであるが、その作成の過程で再度の深刻な自己点検作業を実施した。

教育改善にかかる自己点検・評価活動では、FD委員会が

大部の2009年度『《学生による授業評価アンケート》結果報告書』(全554頁)を刊行し、本事業は、前期授業の大半について十数項目にわたる授業についてのアンケートを実施し、その結果を逐一分析するとともに、結果に関して教員各自がリフレクション・ペーパーを提出するもので、本書はその全体をまとめたものである。

また、この件については、FD委員会において、22年度学生による授業評価の実施を計画し、主として前期授業(一部後期授業)についてアンケートを実施した。年度末にかけて、その結果の分析を委員会で行い、報告書を準備中である。

さらに、教員の教育力向上のためのFD活動の一環として、教員相互の公開授業を実施し、参加教員数は必ずしも多くなかったが、初めての試みとして、有意義であったと判断している。この他、FD委員会は、2年には社会人基礎力育成、キャリア教育に関するFD研修会を実施し、教員の意識向上をはかった。

## (9) 図書館

### ①教育・研究支援

図書館では、平成22年度も、例年通り新生を対象に基本的な図書館利用のガイダンスを行った。人間発達学部では、『ペーシックセミナー』というカリキュラムの一環として図書館での文献調査演習が行われ、図書館もこれに対応して、OPACの利用法や、データベースを利用した文献調査法を紹介するなど図書館利用教育に努めた。

また、教員からの要望により、ゼミ単位での利用指導なども実施した。その他、図書館間の相互利用件数については、平成22年度は他大学からの申込、本学からの依頼共に、前年度に比べ増加しているが、卒論を作成する学生数が減少していることもあって、本学からの依頼数は低迷している状況である。利用者の潜在的ニーズを把握し、如何にして適切な情報を提供するかが課題である。

### ②図書館利用支援

平成18年度以来、開館日数の増加、開館時間の延長を実施し、利用者の利便性の向上を積極的に図ってきた。平成22年度の年間の利用者数(入館者数)は、前年度に比べ、微増にとどまったものの、土曜日の開館延長時(15:30～17:30)の利用者数は、前年度比2割増加した。館外貸出冊数は、学生数が減少しているにもかかわらず、若干増加している。CDの貸出点数は減少しているが、反面、音楽配信の利用が顕著な増加を見せている。また、平成21年度に引き続き、図書館主催のOPAC講習会、データベース講習会や、留学生を対象とした情報検索講習会を実施した。

広報不足もあり、参加人数は多くはなかったが、内容を更に充実させて引き続き利用支援を行ってきたい。

### ③図書館資料の充実

本学図書館は、学習図書館としての機能を重視し、主に学習用コレクションの構築に努めている。シラバス記載の資料をはじめ、各学部のカリキュラムに添った資料を中心に収集する他、平成23年度開設の新学科関連の資料についても、設置計画に基づき資料収集を善美に履行した。また、事業計画で課題としてあげた「図書館の電子化」については、医学・栄養学関係文献データベースなどを導入し、学生・研究者のニーズに応えることができた。

### ④その他

近隣地域住民などを対象にした図書館一般公開制度を平成22年10月より始めたが、広報不足で十分な実績を上げるには至らなかった。その他、3階閲覧室のグループ視聴用大型テレビ、視聴覚室のモニター用テレビを更新し、快適な視聴環境を実現した。

## (10) 学生サポート

### ①経済的支援について

経済的な事由により、学業を継続していくことが困難な学生の為に、経済的支援を行うことによって学業が継続できるよう努めた。具体的には、日本学生支援機構奨学金(貸与)をはじめ大学独自の相愛学園奨学金(貸与)や珠光会奨学金(給付)など各種奨学金に対応した。学部別の奨学金受給率は音楽学部49.6%、人文学部41.6%、人間発達学部48.5%、大学全体で45.9%となっている。

### ②学生生活に関する支援

学生支援センターでは、よろず相談をはじめ日常的に様々な相談に応じながら、学生相談室へ繋げている。学生相談室では心の相談を中心に1年間で開催された。特に年度末に策定された「相愛大学将来構想」は、教育、研究、国際交流、社会貢献、管理運営、財政・施設整備、自己点検・評価の各項目について、本学の新たな将来像を提示したものであるが、万の際に対処できるよう努めた。

大阪近郊以外からの通学困難な学生に対して、2008年度より「安心・安全・愛情」を基本方針とする学生情報セ

ンターと継続提携し、学生が安心して生活できるよう下宿紹介を行った。

近年の若者の犯罪やトラブルについて、新生入生を対象に「新生入へのメッセージ2010」を配布し、あらゆるトラブルの防止に努めるべく注意喚起した。特に薬物事案については、2009年度より行っている薬物乱用防止についての講演を、本年も住之江警察署生活安全課長より講演を頂いた。

### ③課外活動に関する支援

学生部では、単に正課教育によって知識を教授するのみならず、正課外教育の重要性を認識し、学生の自主的な活動(正課外活動)を積極的に支援している。

42名の学生と8名の教職員が福井県おおい町の相愛学園セミナーハウスで2泊3日の夏季リーダーズキャンプを行い、学生部長や学生主任、学生支援センター職員が学生のリーダーと寝食を共にし、学生の代表者と意見交換すると共に、助言・指導に努めた。また学内での3日間に亘る春季リーダーズキャンプに際しても、当初より実施計画の策定や運営方法など数回に亘るミーティングにも参加し、相談に応じた。

学生イベントで最大となる大学祭(Blue Ocean Festival)では、実行委員が当初1人もいないという危機的状況から、有志のメンバーが集まり、大学祭実行委員会を立ち上げ、精力的に動いた結果、2日間の来場者2200名を迎えるほどの賑やかな大学祭が成功裏に終了した。

学生支援センターでは、これらの学生主催行事を大学における帰属意識を高めると共に、正課では得られない貴重な機会と位置付け、出来る限りの支援に努めた。

本年度は特に学生会の問題が巻き起した為に、その問題の終息と今後の課題を検討することに鋭意努力し、問題再発防止に対する検討を行い、春季リーダーズキャンプでは学生団体代表者間でのグループ研修を行った。

2008年度より、学生の諸活動における評価として学生表彰制度を設けているが、今年度はABC新人コンサート出演や福岡国際オープンテニス優勝の学長賞2名をはじめ、学長奨励賞1名、学生部長賞3団体及び10名、本願寺賞3名の学生を表彰した。特に今年度から卒業年度受賞者には、卒業式で表彰を行うなど、学生の満足度や達成感を高める工夫をした。

### ④学生の要望に対する回答実施について

学生会から年1回、定期的に大学に対する学生の要望を受け付けている。この要望書を纏めるためのプロセスについて助言を行い、学生委員会(学生部長所管)で検討を加えた後、学長へ提出させている。今年度は、フットサルのゴールネットを新規購入し、学生の要望に応えた。

### ⑤学生の健康管理について

入学季務時に健康調査票を提出させ、4月の健康診断と共に学生の健康管理について役立った。校医による健康相談を年間5日設定し、学生が直接校医に対して、健康上の不安や悩みについて相談する機会を与え、その解消に努めた。体育会系クラブ生については、スポーツ事故を未然に防ぐことを目的として、心電図検査を含むスポーツ検診を実施した。更に構内に2台設置しているAEDの講習会を行い、体育会系クラブ生20名、教職員8名が参加した。その他2010年度の保健室の年間利用状況は、学生692件、教職員88件、合計780件の利用があり、その利用状況に応じ適切に対応した。

近年流行している感染症(新型インフルエンザや麻疹等)に対して、抑止の啓発活動を掲示等で行うと共に対応マニュアルを策定した。

## (11) 宗教部の活動

### ①各種宗教行事の実施

「他者とともにこれ如らの一子なり、まさに相敬愛すべし」と説かれた聖教のこころを基本とし、宗教を通した人間形成を建学の精神としており、これを具現化すべく年間を通じて各種の宗教行事や音楽礼拝を取り入れた行事を実施した。

### ◆年間行事

4月：入学式(4日)・新入生本山参拝(17日)・仏生会法要(22日)  
5月：親鸞聖人降誕会法要(20日)  
6月：定例礼拝(10日)  
7月：定例礼拝(1日)  
10月：定例礼拝(7日)  
11月：報恩講法要(11日)・御内仏報恩講法要(14日)・保護者の集い(28日)  
12月：成道会法要(2日)  
1月：成人の集い(8日)・親鸞聖人御正忌法要、

学園関係物故者追悼法要(14日)

2月：燦敬式(19日)

3月：津村別院卒業参拝(16日)・卒業式(18日)

### ◆礼拝室礼拝

授業期間中の毎週木曜日12:30～教職員を対象に礼拝室にて礼拝を実施。2010年度は、年間24回(前期12回後期12回)実施した。講師は本学僧侶者が輪番制により勤めた。

### ◆聖歌隊の運営

聖歌隊は本学の特色である音楽礼拝を行うには欠かさない存在となっている。

2010年度は、20名の学生が入学式をはじめ、卒業式や各種宗教行事で聖歌を果たし、献灯・献華・献香などの役付としても重要な任を果たした。

### ②講演会

建学の精神を広く社会へ普及させるため、2010年度は下記10回の講演会を開催した。

### ◆市民仏教講座

|      |        |            |                                 |
|------|--------|------------|---------------------------------|
| 第1回  | 4月24日  | 講師：北崎 契縁氏  | テーマ 等身大の親鸞像到来の予兆～五木寛之著『親鸞』を中心に～ |
| 第2回  | 5月15日  | 講師：小野 真氏   | テーマ 親鸞聖人750大遠忌 『宗祖讃仰作法』(1)      |
| 第3回  | 6月5日   | 講師：釈 徹宗氏   | テーマ 現代を生きる力としての仏教               |
| 第4回  | 7月3日   | 講師：佐々木 隆龍氏 | テーマ 出遭いどつながり                    |
| 第5回  | 9月18日  | 講師：井上 陽氏   | テーマ パーミヤン：大仏建立とその周辺             |
| 第6回  | 10月9日  | 講師：佐々木 隆晃氏 | テーマ 「仏の言葉に違わず聖典拝読～」             |
| 第7回  | 11月13日 | 講師：渡邊 了生氏  | テーマ 「フツダの教えと親鸞の『すくい』」           |
| 第8回  | 12月11日 | 講師：北崎 契縁氏  | テーマ 「臓器移植と仏教説話の接点について」          |
| 第9回  | 1月22日  | 講師：小野 真氏   | テーマ 親鸞聖人750大遠忌 『宗祖讃仰作法』(2)      |
| 第10回 | 2月12日  | 講師：釈 徹宗氏   | テーマ 「真宗のカナメ」                    |

## (12) 就職支援

### ①就職環境と就職状況について

薄日がさしかけていた日本経済も、3月11日の東日本大震災により、経済状況は一層不安定となっている。雇用環境が良化せず、新卒採用においても自宅待機を命ぜられるなど、より一層厳しい状況が続いている。本学における求人は、昨年度1429件に対して本年度は1234件と195件減であった。加えて、1社あたりの採用人数も減少傾向にあり、「量より質」の厳選採用が続いている。

本学でも求人事務システムを導入し、本学に届いた求人を取りアルタイムに学生ポータルへ掲載している。大学に届いた求人を中心に学生には積極的に活動するよう指導していったが、就職状況については、昨年度の就職率89%に対して、今年度の就職率は83%と、6%減の結果となった。

### ②就職支援行事について

厳しい就職戦線を勝ち抜くためには早い段階から、しっかりとした就職意識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力、基礎学力を涵養することが必要である。

そのため、2回生の段階からキャリアデザイン講座、基礎学力講座を実施した。

キャリアデザイン講座では自分の将来を考える事とビジネスマナーについて指導し、基礎学力養成講座では、主に言語能力分野と数学能力分野と政治・経済・社会分野の講座を実施した。3回生でおこなったキャリアプランニング講座では、インターンシップへの参加を目標とし、ビジネス知識やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の強化をはかり、大学コンソーシアム大阪で行われた夏季インターンシップ(一般企業13名・保育所3名)への参加を促した。また、講座参加者全員に「横浜ビジネスグランプリ2011」にも積極的に参加をさせ、そのうち2名が本選に進むことができたのは、なにより後輩の励みになることだろう。3回生の就職試験対策行事においては、自己分析、企業研究、筆記試験対策、面接試験対策の4つを重点的に取り組んだ。具体的には「a.就職ガイダンス、b.就職適性検査、c.グループ面接・グループディスカッション模擬演習、d.内定者体験発表会・懇談会、e.筆記試験対策講座、f.業界研究時、g.個人面接・個人面接練習」という行事を実施している。

就職活動中の4回生には、志望業界、活動状況に個人差があるため、個別指導を中心に対応し、面接練習、個人相談、履歴書・エントリーシート添削、本学に届いている求人紹介などをきめ細やかに指導した。就職活動に成功する学生は、やはり行事の出席率、学生支援センターの利用率も高いため、今年度も諸行事と支援センターの活用に関する広報活動の強化に努めた。従来、学内掲示、保護者宛のDMハガキや、就職委員・学科担当助手による講義内での行事日程連絡の依頼といった方法に加えて、学生ポータルサイトを利用し、各行事の1週間前には、学生個々にメールで案内を配信した。

就職支援行事として、中国からの留学生のための就職ガイダンスと公務員講座を実施し、試験対策講座として、マイクロソフト WORD2007とEXCEL2007のライセンス講座を実施した。マイクロソフト試験合格率は、WORD2007が85%でEXCEL2007が92%と良い結果であった。

### ③企業訪問について

学生が円滑な就職活動をするためには、まず各企業、事業所とのパイプを繋ぐことが大切である。特に採用実績企業には確実に求人をしていただき、就職実績をあげるよう、同企業を中心に、春は求人のお願いに、秋には内定実績企業へのお礼と追加求人のお願いのための企業訪問を実施している。

## (13) 学生募集

### ①広報用冊子の作成と受験雑誌への情報掲載

本学の特徴や独自性を魅力的に分かりやすく説明し、各学部の特色やカリキュラムを紹介した「2011年度版 大学案内」と、平成23年度入学試験と前年度入試の結果の概要を簡潔に説明した「2011年度版入試ガイド」を5月中旬に作成、配布した。

また、受験生がわかりやすく出願しやすいよう工夫した「平成23年度入学試験要項」を、9月初めに受験生及び高等専攻、予備校等に送付した。

平成23年度設置予定の音楽学部音楽マネジメント学科、人文学部仏教文化学科と文化交流学科について、それぞれパンフレット2種類を作成。高等学校長と進路指導部長宛に送付した。また大学案内と同時に配布し新学科の開設をアピールした。

特に仏教文化学科は、別にチラシを作成し、本願寺から各組長に送付される定期便と同時に同封依頼し送付した。

また、受験情報雑誌等79媒体への情報掲載と音楽雑誌「音楽の友」への年間広告掲載を行った。

### ②入試説明会の実施

高等学校教員や予備校、塾などの関係者を対象とした入試説明会を6月15日に開催し、平成23年度開設予定の新学科について説明や前年度入試結果の報告と変更点を中心に説明を行った。

### ③オープンキャンパス

オープンキャンパスの参加受験生の出席率が高いことから、受験雑誌や電車の車内吊り広告、チラシを使った広報を実施。高等学校進路指導部や受験生の資料請求へのDMを発送。ホームページには当日のイベント案内をキャンパスマップ上に配置し、アピールした。

オープンキャンパスは、5月30日、6月20日、7月25日、8月21・22日、9月12日、3月20日の計7回と大学祭(10月23・24日)にも入試相談コーナーを設置し、ミニ講義、学科イベント、学部学科の説明や入試に関する相談等を行い、受験生が大学生活の具現化を出来るよう努め、のべ672人の参加者があった。

### ④高等学校・予備校訪問、模擬授業への参加

高校訪問専従者を中心に教員や事務職員も、高等学校、予備校や塾、日本語学校等を625校訪問し、相愛大学の特徴や各学部学科の概要説明や入試の詳細を周知することに努めた。

また、進学相談会や高校主催の模擬授業や分野別ガイダンスでは301会場に参加した。

### ⑤音楽学部受験講習会

音楽学部の受験を考えている生徒に対して受験講習会(8月・12月)への参加促進のため、音楽雑誌「バンドジャーナル」に広告掲載し、高等学校や受験生に対して、講習会資料を送付した。

### ⑥その他

本学のホームページを利用して、入試に関する情報や過去問題を公開した。日本能率協会からコンサルティングを受け、インターネットでのオーバーチュアを実施。他大学名で検索後、本学の資料請求し事例も見られた。オープンメールを利用し推薦入試の出願促進も実施した。

2.高等学校・中学校

平成22年度相愛高等学校・中学校における教育活動に関する主な取り組みについて報告する。

(1)教育の質の向上を目指した取り組み

①生徒の学力確保、学力向上について  
学校の根幹は、法令の定めによる授業を日々適切に行うことによって、生徒が指定される教材を理解して学力が向上することにある。これは大学系列校として本校であっても同様であるとの認識で、以下のような取り組みを進めた。

②授業時数の確保  
授業時数の確保のため、学園暦や行事等の精選と見直しを始めて2年が経過したが、今年度も種々の工夫によって授業時間数が確保された。次年度も引き続き授業日数、授業時間数の適正化に努め、同時に曜日ごとの標準化にも努めた。

③授業内容の向上  
教材の選定、年間を通じた継続指導、各授業の準備と実施など教員が実践しなければならない業務の質を向上については、各自の努力により一定の向上が見られた。

また、基礎学力及び学習習慣を診断する「スタディサポート」の導入により、生徒の学習状況(家庭学習も含めて)はある程度把握できたが、今後効果的に個々の生徒のデータを活用し、十分な学習を行える環境の確保を図りたい。

④自主的な学習  
学習を支える授業以外の時間の活用に向けて、学級活動の中で学習に対する意識の向上を目指し、自主的な学習へと生徒を導く仕掛けを作る取り組みについては、生徒個々の意識の向上も必要であるし、その意欲を喚起する教師のサポート体制の確立については、自習室の活用と同時に質問に応じる教師の姿が多々見られたが、まだ個別の対応に止まっているため、今後も取り組みを強めていきたい。

⑤各種資格の取得  
英語検定は以前から行われており成果をあげており、また漢字検定への取り組みも2年が経過したが一定の定着が図られた。今後は大阪府の英語検定試験TOEFL重視方針が喧伝されているが、その動向も踏まえ資格取得の拡充を図りたい。

(2)進路の策定と保障  
高校卒業後の進路先は時代を反映して多様である。大学進学による高学歴を望む者、音楽その他の素養と実力の獲得を望む者、趣味や華やかなものを生活の基盤と捉えることを願う者など様々な生き方を願う生徒が在籍していることを念頭に進路指導を行う。そのために高校卒業直後の4月の進路先確保に留まらずに、生涯を見据えた進路先の選定を行い、現代の若者の人生設計を教職員と共に学ぶ姿勢が必要である。

①高校特進コースでは、上記1)の「学力保障、学力向上」に示される業務を、大学受験合格を最終目標として取り組み、夏の2泊3日の勉強合宿をはじめとして取り組みを強化してきた。結果として、希望する大学への合格は成果として充分ではなかったが、次年度への足がかりとなった。

②高校進学コースでは、指定校推薦による大学進学が多数を占めているが、今後も指定校枠の拡充や新規開拓を図ること及び、センター試験への挑戦の意欲も高めた。

③教員室の環境整備については不要機の整理やPC機の整備・休養ソファの設置などを行い、環境整備が図られた。この措置により教員室内の導線も整備されゆとりができ、相互連絡や相談が日常的に行われる環境が設定できた。

④生徒の学習、部活動が充実する環境整備の一環、とりわけ自発的な学習を推進する目的で設置された教員室前の自習室は活用が軌定しているが、各種会議が自習室で行われるなど常時教室確保ができにくい点や環境の整備などが課題として残った。

⑤時代の変遷とともに生徒・保護者の考え方や学校に対する要望等は大きく変化してきているが、教師・学校はその変化に十分対応できていないのが現状である。カウンセリング研修会や相愛大学の先生を招聘して保護者対象の子育て講演会などを開催して、保護者・生徒への対応のあり方を学んできたが、社会への目を大きく開いて変化に対応しえる資質を養うことが肝要である。

(3)生活指導、生徒指導への取り組み  
①仏教精神に基づく教育に取り組んでいる我が校として、朝夕の礼拝や各種宗教的な行事を通して、豊かな人間性が育まれていると確信しているが、学校評価での生徒と教師・

保護者との意識の違いは習慣化の形式化による影響も大きいと考えられ、次年度は朝の礼拝の在り方について再考したい。

朝夕の挨拶や廊下等での外来者への会釈など相愛の伝統として定着しているが、今後も生活規範意識の確立をはかり、素直で明るく清潔な相愛生徒の育成に努めることが、生徒自身や学校・保護者の願いであるし、社会一般の相愛に対する評価を高める大きな要因と考える。

②不登校、集団不登校、学習障害などの現代の学校が抱える諸課題があるが、本校も例外ではない。スクールカウンセラーが配置され担任・保健室とも連携した指導体制が促進された。今後もより一層の活用を図り、生徒理解に努めたい。

③女子校として総合的な学習の時間を活用して日本伝統文化の体験の場を設定し、茶道・華道・着付け等の講座を設けており、相愛の特徴として定着しつつある。今後も引き続きその充実にも努めたい。

また、放課後の授業の一環として、従来あったU講座を発展解消してSoai教養講座を設置し、茶道・華道・華曲・英会話・ピアノ・木管楽器等の講座を外部講師を招いて開講し、100名を超える受講が好評であった。今後も開講の増加を含めて充実させたい。

④本校の図書館は4階に位置しエレベーターも無く、生徒の移動に不便であるが、図書館スタッフの「図書室便利」などの発行やブックトークなどの活動により成果をあげている。今後もその充実を目指すと共に、日常的に読書を奨励して生徒の資質向上を目指したい。

(4)年間行事並びに特別活動  
①生徒会が主体的に運営している体育祭については、昨年度に引き続き盛り上がりを見せたが、育友会のご配慮で生徒席にもテントが設置され暑さ対策にもかなり好評であった。引き続き学校生活に豊かさと活発性が見られるように年間各種行事の活性化を図りたい。

②部活動については、参加率の低下が課題としてあげられるが、次年度はスポーツ推薦の生徒の入学も予定されるので、学業とクラブ活動を含めた諸活動が両輪として活発化するよう推進していきたい。

(5)学校改革  
時代の変遷と共に学校は変化を求められる。公立・私立の学校の情報だけでなく、広く社会全体の動向に目を配り、創立123年目を迎える本校は「不易と流行」を旨として学校改革を推進した。

①年間教科指導計画の全体把握も3年目になるが、年間授業時数の適正配分や年度途中での進捗状況の把握により、PDCAサイクルの意識につながったが、次年度は生徒・保護者対象に各教科のシラバスの掲載を目指す。

②平成24年度から新指導要領の完全実施となるが、23年度版と24年度以降の教育課程について、選授業時数を1時間増加するなど教科を重視したカリキュラムを設定した。

③従来の人権教育・生徒指導関係の研修に加えて、学校経営について私学財団の方の講演や、学校情報提供企業であるスクールパートナーズの江口先生のプレゼンテーション関係の講演など、新たな切り口の提示をいただいた。次年度も外部講師による研修会の充実を図りたい。

④校内組織、分室内組織の適正化については、年々職員数が減少している中、職務内容の見直しやスリム化が図られたが、今後も分掌の重点化・焦点化を目指す。

⑤教員室の環境整備については不要機の整理やPC機の整備・休養ソファの設置などを行い、環境整備が図られた。この措置により教員室内の導線も整備されゆとりができ、相互連絡や相談が日常的に行われる環境が設定できた。

⑥生徒の学習、部活動が充実する環境整備の一環、とりわけ自発的な学習を推進する目的で設置された教員室前の自習室は活用が軌定しているが、各種会議が自習室で行われるなど常時教室確保ができにくい点や環境の整備などが課題として残った。

⑦時代の変遷とともに生徒・保護者の考え方や学校に対する要望等は大きく変化してきているが、教師・学校はその変化に十分対応できていないのが現状である。カウンセリング研修会や相愛大学の先生を招聘して保護者対象の子育て講演会などを開催して、保護者・生徒への対応のあり方を学んできたが、社会への目を大きく開いて変化に対応しえる資質を養うことが肝要である。

(6)学校、学園の現状に対する理解と将来計画への参画  
①学園の財務状況、とりわけ本中高の状況については法人本部から数度の説明会があり、私学財団からも本学園の財務状況についての客観的なデータを交えての指摘があり、容易ならぬ状況であるとの認識は共有できたのではないかと、今後はこの共通認識の中で中・高として生徒増を図り、

学園の財務状況へ寄与できる方策を強めることである。

②本年度に導入された公立高校無償化並びに高校就学支援補助金制度により、大きく入試地因が塗り替えられた。大阪全体でも私学併願生徒が減少し、専願生が4000名の増となった。その反面公立普通科では全体の4割程の学校が定員割れとなったが、この状況は次年度も流動的であるが継続するであろう。

また公的補助金が保護者負担に回されたために、従来の私学経常費補助が見直され、次年度については一定の経過期間とされたが今後も注視して対応しなければならない。

③中高の将来設計については、コース名称の変更や新コースの設置など検討されたが実施に至らず、今後も早期の策定を図る。

④本町学舎での大学展開が提案され、C棟を解体し大学校舎の建設やプール設備の廃止、F棟からB棟への移動など中高として設備面で大きな撤収を余儀なくされたが、学園全体の経営方針として今後も協力を惜しむものではないが、中高・大学の生徒数・学生の動向を見ながら大学との共用を検討する必要がある。

(7)入試広報活動  
①中学校入試について  
長年懸案であったプレテストの導入に踏み切り、テスト後の対策講座や教育相談など、生徒のみならず保護者の方も多数の参加があり、大きな成果があった。しかし、少子化に端を発する学齢生徒の減少もあり、結果としては昨年並みの入学者数となった。

新たな塾の開拓や公文・そろばん塾など範囲を広げて行ったが、今後は鉄道路線を特化した形の切り込みを含めて応募増につなげたい。

②高校入試について  
公立高校無償化並びに大阪独自の高校就学支援補助金制度等により、この春の入試は大きく変化した。併願生の減少と専願生の増加、また併願戻りの減少など、ある程度予想されたことであり、私学への大きな流れとなったが、また本校としてつかみ切れていない。塾訪問もさることながら中学訪問で私学の優位性・本校の特色などを明確にし、対応を強化していかなければならない。

入試説明会の時期、体験学習の内容など検討課題は山積しているが、私学として生き残るため、なし得る全ての事にトライしなければならぬ。

3.音楽教室  
相愛音楽教室は創立55年の伝統に培われたものを大切にしつつ時代のニーズを感じ取り、今後いかに発展させていくかということについて、毎年思索、検討を続けている。

年に3回(春2回、秋1回)行われる入試試験面接の際に受験動機をたずねると、大半が口コミによるものであることから、その輪を広げ、より多くの人々に相愛音楽教室の存在をより強くアピールする広報活動が課題としてあげられていた。折りしも平成22年度は音楽教室生、オーケストラ研究生、および大学生による「相愛オーケストラ組中国公演」が実現し、9月上旬に瀋陽に赴き、遼寧大学など3ヶ所で演奏し、いづれも大好評を博した。帰国後、公演のDVDが作成されたが、学園からそれをもとに音楽教室の宣伝用DVDも作っては、どのお話をいただき、教室側はそれを受けて直ちに作業をはじめ、3月に完成に漕ぎ着けた。早速本学教員、音楽教室講師、教室生、同窓会に配布し、学園ホームページにアップするほか、楽器店などにも声をかけている。今年度さらに効率的な宣伝を行い、少しでも多くの受験生の獲得に貢献するよう努力する所存である。教室の例年のコンサート関連の行事としては、サマー・コンサート(7月)、在室生のための鑑賞演奏会(10月)、3月修了予定者による音楽教室演奏会(12月)、在室生によるスプリング・コンサート(2月)、オーケストラC組D組に所属する在室生による「相愛オーケストラC組D組発表演奏会」(3月)が行われた。鑑賞演奏会は音楽教室が在室生のためにしている講座形式のコンサートで、回を重ねるうちにご父兄をはじめとする一般の方々の来場が増加して定着してきたが、昨年度は二人のチェロ専任教員による「チェロの魅力」と題する内容で、低音楽器についてのレクチャーとソロおよびデュオの演奏を行った。一方、相愛オーケストラC組D組発表演奏会ではD組の小中学生、C組の中学生がそれぞれ日頃の成果を充分に発揮したが、さらには最後にC組D組初めての合同演奏を行い大喝采を受けた。その様子は音楽教室、相愛オーケストラ、そして学園のこれらに希望を抱かせるような光景であった。また恒例の「ピラノ公開講座」は本学山本英二教授の指導のもと行われ好評に終了した。その他、平成19年度に立ち上げた楽典通信教育も、現在は少しずつ学習者が増加しているが、進化したところある教材として一層の内容の充実を目指して改訂を加えている。

4.広報活動

本学では、広報担当部署が4つ〔学園広報全般(総務課)、学生募集(大学/入試課、中・高/高専事務室)、ホームページ(管財課)あり、それぞれ役割分担し広報を展開しているが、その役割分担が本学の現状や将来計画を広く知らせつつ、本学の認知度、ブランドイメージを高めるために、何をどのように誰に知らせるべきかをそれぞれ再検討し、その枠組みを超え相互理解・協し、広報活動を行う必要がある。2010年度は昨年度から引き続き広報担当者会議を定期的に開催し連携の強化を図った。

現在の広報は一つのメディアで完結していた時代から、複数のメディアを有機的に織り交ぜながら活用する時代となり、また時代のニーズも新たなメディアへと移行している。そこで各メディアが独立して存在するという概念を拭き去り、それぞれの特徴、特性、即応性等を見直すことで、限られた予算の中で、より効率的で連続性のある広報を展開、歴史ある相愛学園がいまでも光り輝く存在であることを世に問い続ける広報の展開を目指し、広報戦略を短期的に立案し実行した。

(1)各部門のIdentity(個性・特長)を明確にするとともに、そこで完結することなくつながりのある手法・手段で、学生・生徒募集力の強化に繋がる広報活動を展開するとともに、各部門の単独の力を最大限に発揮し、興行きのある広報を展開する。

(2)広報誌「SOAI Familiar」を年3回(新入生歓迎号、第17号4月20日、第18号12月10日)発行し在学生・保護者・同窓生・大阪教区・奈良教区内真宗寺院等を対象に配布するとともに、広く社会一般にも配布し学園の実状をアピールする。学内報「當相敬愛」を年5回(4/28、6/10、9/10、12/15、2/17)発行し、内容の充実を図り、教・職員がより一体となりこの難局に立ち向かうよう、危機意識の共有を図るとともに、学内報のペーパーレス化実現をめざす。

(3)ホームページは、大学・中高の情報をリアルタイムで発信する手段として必要不可欠なメディアである。最新のトピックス更新システムを導入したことで情報のリアルタイム化を実現している。

また、大学ホームページにおいては情報システム運用委員会を毎月開催することで今後の展開を審議している。2011年4月の部分リニューアルを実施目標に、各学科単位で公式ブログを構築した。立上げ当初に比べ2011年3月の時点でのアクセス数は倍増し一日平均200アクセスを数えている。さらに2012年度入試に向け2010年6月に受験生向けページの全面リニューアルを行った。

管理運用面では、最新の情報を担当部署にいち早く集約させるなどの人的ネットワークをより強固に確立させるほか、学園による統合管理を実施しているところで統一性のある適切な情報発信を展開する。

III.各学校の施設整備計画

施設設備整備計画については、施設の老朽化に伴う所要の更新において、適正な資産管理を実施している。平成22年度実施は以下のとおりである。

(1)南港学舎での主な工事  
図書館空調更新/各棟空調器補修/5〜7号館消火器更新  
1〜3号館消防ホース更新/構内南側高木剪定・土留/グラント電源設置工事等

(2)本町学舎での主な工事  
大学新学科設置本町学舎改修/B棟・8号館空調機更新  
B棟エレベーター基盤等交換/B棟手摺改修/受水槽・高架槽ポンプ交換等

正面玄関タイル/進路指導室防音/生徒用椅子取替/視聴覚教室照明配線改良  
調理実習室用パイラ取替/チャーターユニット計装改良/放送回路変更工事

地上デジタル対応/ケーブルテレビ配線

平成22年度決算

平成22年度決算が、平成23年5月27日(金)の理事会・評議員会において承認された。資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表について報告する。

●資金収支計算書 平成22年4月1日〜平成23年3月31日 (単位 千円)

| 科目         | 予算        | 決算        | 差異       |
|------------|-----------|-----------|----------|
| 学生生徒等納付金収入 | 2,542,635 | 2,546,391 | △ 3,756  |
| 手数料収入      | 24,807    | 23,668    | 1,139    |
| 寄附金収入      | 34,584    | 32,924    | 1,660    |
| 補助金収入      | 434,027   | 431,499   | 2,528    |
| 国庫補助金      | 202,152   | 202,152   | 0        |
| 地方公共団体補助金  | 231,875   | 229,347   | 2,528    |
| 資産運用収入     | 9,037     | 8,522     | 515      |
| 資産売却収入     | 820       | 820       | 0        |
| 事業収入       | 73,976    | 73,408    | 568      |
| 雑収入        | 143,180   | 143,185   | △ 5      |
| 借入金等収入     | 400,000   | 400,000   | 0        |
| 前受金収入      | 329,183   | 305,055   | 24,128   |
| その他の収入     | 443,819   | 508,497   | △ 64,678 |
| 資金収入調整勘定   | △ 490,753 | △ 491,758 | 1,005    |
| 前年度繰越支払資金  | 1,638,514 | 1,638,514 |          |
| 収入の部合計     | 5,583,829 | 5,620,725 | △ 36,896 |
| 人件費支出      | 2,435,785 | 2,439,455 | △ 3,670  |
| 教育研究経費支出   | 761,574   | 716,338   | 45,236   |
| 管理経費支出     | 264,982   | 262,457   | 2,525    |
| 借入金等利息支出   | 439       | 439       | 0        |
| 施設関係支出     | 131,053   | 136,023   | △ 4,970  |
| 設備関係支出     | 102,369   | 100,890   | 1,479    |
| 資産運用支出     | 6,269     | 68,447    | △ 62,178 |
| その他の支出     | 698,365   | 720,869   | △ 22,504 |
| 資金支出調整勘定   | △ 325,340 | △ 344,920 | 19,580   |
| 次年度繰越支払資金  | 1,508,333 | 1,520,727 | △ 12,394 |
| 支出の部合計     | 5,583,829 | 5,620,725 | △ 36,896 |

●貸借対照表 平成23年3月31日 (単位 千円)

| 科目        | 資産の部       |            |           | 負債の部                   |             |             |           |
|-----------|------------|------------|-----------|------------------------|-------------|-------------|-----------|
|           | 本年度末       | 前年度末       | 増減        | 科目                     | 本年度末        | 前年度末        | 増減        |
| 固定資産      | 16,930,867 | 17,194,703 | △ 263,836 | 固定負債                   | 1,071,361   | 824,715     | 246,646   |
| 有形固定資産    | 15,412,066 | 15,592,097 | △ 180,031 | 長期借入金                  | 360,000     | 0           | 360,000   |
| 土地        | 6,579,214  | 6,579,214  | 0         | その他固定負債                | 711,361     | 824,715     | △ 113,354 |
| 建物        | 6,485,302  | 6,693,214  | △ 207,912 | 流動負債                   | 721,455     | 1,079,823   | △ 358,368 |
| その他有形固定資産 | 2,347,550  | 2,319,669  | 27,881    | 短期借入金                  | 40,000      | 0           | 40,000    |
| その他の固定資産  | 1,518,801  | 1,602,606  | △ 83,805  | その他流動負債                | 681,455     | 1,079,823   | △ 398,368 |
| 流動資産      | 1,658,816  | 1,975,922  | △ 317,106 | 負債の部合計                 | 1,792,816   | 1,904,538   | △ 111,722 |
| 現金預金      | 1,520,727  | 1,638,514  | △ 117,787 | 基本金の部                  |             |             |           |
| その他流動資産   | 138,089    | 337,408    | △ 199,319 | 第1号基本金                 | 25,351,611  | 25,311,203  | 40,408    |
|           |            |            |           | 第3号基本金                 | 200,000     | 200,000     | 0         |
|           |            |            |           | 第4号基本金                 | 379,000     | 379,000     | 0         |
|           |            |            |           | 基本金の部合計                | 25,930,611  | 25,890,203  | 40,408    |
|           |            |            |           | 消費収支差額の部               |             |             |           |
|           |            |            |           | 翌年度繰越消費支出超過額           | 9,133,744   | 8,624,116   | 509,628   |
|           |            |            |           | 消費収支差額の部合計             | △ 9,133,744 | △ 8,624,116 | △ 509,628 |
| 資産の部合計    | 18,589,683 | 19,170,625 | △ 580,942 | 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計 | 18,589,683  | 19,170,625  | △ 580,942 |

●消費収支計算書 平成22年4月1日〜平成23年3月31日 (単位 千円)

| 科目        | 予算        | 決算        | 差異      |
|-----------|-----------|-----------|---------|
| 学生生徒等納付金  | 2,542,635 | 2,546,391 | △ 3,756 |
| 手数料       | 24,807    | 23,668    | 1,139   |
| 寄附金       | 34,866    | 35,535    | △ 669   |
| 補助金       | 434,027   | 431,499   | 2,528   |
| 国庫補助金     | 202,152   | 202,152   | 0       |
| 地方公共団体補助金 | 231,875   | 229,347   | 2,528   |
| 資産運用収入    | 9,037     | 8,522     | 515     |
| 資産売却差額    | 820       | 820       | 0       |
| 事業収入      | 73,976    | 73,407    | 569     |
| 雑収入       | 143,180   | 143,185   | △ 5     |
| 帰属収入合計    | 3,263,348 | 3,263,027 | 321     |
| 基本金組入額合計  | 0         | △ 40,408  | 40,408  |
| 消費収入の部合計  | 3,263,348 | 3,222,619 | 40,729  |
| 人件費       | 2,312,933 | 2,308,268 | 4,665   |
| 教育研究経費    | 1,123,948 | 1,083,656 | 40,292  |
| 管理経費      | 286,998   | 284,584   | 2,414   |
| 借入金等利息    | 439       | 439       | 0       |
| 資産処分差額    | 215,816   | 21,247    | 194,569 |
| 徴収不能額     | 31,571    | 27,079    | 4,492   |
| 徴収不能引当繰入額 | 0         | 6,973     | △ 6,973 |
| 消費支出の部合計  | 3,971,705 | 3,732,246 | 239,459 |

|              |           |           |  |
|--------------|-----------|-----------|--|
| 当年度消費支出超過額   | 708,357   | 509,627   |  |
| 前年度繰越消費支出超過額 | 8,624,117 | 8,624,117 |  |
| 翌年度繰越消費支出超過額 | 9,332,474 | 9,133,744 |  |